



学務部入試課 〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 TEL.03-5803-5083
5084



東京医科歯科大学入学案内サイト
<http://www.tmd.ac.jp/admissions/index.html>



知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する

本学の歴史は、我が国で最初の官立歯科医師養成機関である東京高等歯科医学校が設立された昭和3年10月12日に始まります。以来、学問と教育の聖地、湯島・昌平坂（しょうへいざか）に建つ本学は、医療系総合大学として「知と癒しの匠」を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献してきました。

「知」とは、知識、技術、自己アイデンティティであり、「癒し」とは、教養、感性、多様性を受け入れるコミュニケーション能力です。これらが融合するところに「匠」への道が拓かれるものと確信しています。

本学の学生には、何の為に自分が存在するのか、ということをはじめ、自分の置かれている状態を正しく理解し（自己アイデンティティを確立し）、全世代・全世界の人々に対応することのできる（多様性を受け入れる）コミュニケーション能力を身につけた「知と癒しの匠」となって国内・国外で活躍して欲しいと願うとともに、そのための支援を本学は惜しみません。

学長挨拶

本学は、医学部医学科、医学部保健衛生学科、歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科と教養部、そして、大学院歯学総合研究科と大学院保健衛生学研究科、さらに、生体材料工学研究所と難治疾患研究所を有する日本で唯一の医療系総合大学院大学です。

本学では、科学的視点を持った医師、歯科医師、看護師、臨床検査技師、歯科衛生士、歯科技工士の育成は勿論のこと、医療・生命科学領域の研究・学問体系の構築を図りながら、卓越した研究者・医療人の養成に努め、広く人々や社会に貢献することを目指しています。

本学が学生に求める医療人としての基本は、自己アイデンティティを確たるものにして多様性を受け入れるコミュニケーション能力を身につけることです。

すなわち、相手に敬意を表して話を伺い、相手の心を理解した上で、専門的な助言をできるようになることです。

教 養

本学は総合大学でも一部の大学しか持っていない教養部を残しているのが特徴です。

先ず、本学の「知と癒しの匠を創造し、この匠を国内・国外に展開する」というミッションを果たすには、教養時代から始まる癒し、すなわち教養、感性、多様性を受け入れるコミュニケーション能力の資質を身につけることが医療人としての出発点です。友人、先輩、他大学生との交流、恋愛、読書、映画、音楽・絵画鑑賞など何事にもチャレンジして下さい。この時期では失敗の数が多い程、自分自身になる、人間としての深さが増していきます。

教養から学部

以後、徐々に知、すなわち知識、技術、自己アイデンティティの確立（これは生涯を通して追及するもの）を身につけていって深みのある人間となり、心を理解できる専門家として成長していくのです。

医療人が医療の課題で失敗することは許されません。この失敗とは、医療行為の結果として患者救済に至らなかったということではなく、医療行為の中に他の専門家が首を傾げる行いをしたという意味です。

学長 吉澤 靖之

アドミッション・ポリシー

本学は、幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成するため、優秀な教員と最高の設備、そして世界水準のカリキュラムを用意して、本学とともに「世界に冠たる医療系総合大学」を目指す意気込みのある学生を待っています。

教育理念

1 幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養を目指す

病める人と向き合う医療人は、患者の痛みが分かり、そして患者を取り巻くさまざまな状況をも理解しなければならない。それには豊かな教養と人間への深い洞察力、高い倫理観と説明能力を備えなければならない。

2 自己問題提起、自己問題解決型の創造力豊かな人材を養成する

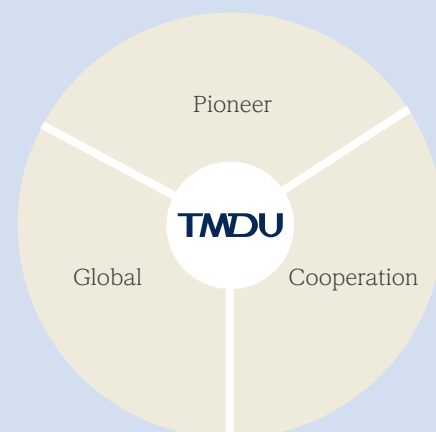
学業あるいは研究に当たっては、何事も鵜呑みにすることなく、疑問を投げかけ、種々の情報を収集、解析し、自ら解決する能力が求められる。そうしてはじめて、独創的な研究を推進できる人材が育まれる。

3 国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する

研究成果が即座に世界に伝播する現代において、医療の分野でもその情報と時間の共有化が益々進んでいる。このような状況の中で、立ち遅れない、むしろ最先端に行く人材の養成に努める。そのために海外教育研究拠点、海外国際交流協定校への派遣を積極的に推進する。

グローバルな教育ネットワーク。
医学・歯学の緊密な連携。
本学ならではの特色ある教育体制で、
人間性豊かで、優秀な医療人を育てる。

時々刻々、飛躍的に発展を遂げる医療技術。
東京医科歯科大学は、医学・歯学の領域において、
世界を舞台に活躍できる人材を育成するため、
特色ある教育体制を整えています。
盛んな海外研修制度、一大学ではなしえない教育プログラム、
国立大学では唯一の教養部の設置など、その種類も多彩。
一人一人が目標とする選択肢は、これまで以上に広がっています。



Pioneer 次代の医療人を育てる、医歯学教育・研究のパイオニア

東京医科歯科大学は、国立大学の中で最古の歴史を持つ歯学部をはじめ、国立大学では初めての保健衛生学科の設立など、常に医歯学教育・研究のパイオニアとして歩んできました。医学部と歯学部の教員が相互に協力し合い、より専門性の高い教育を行っています。両学部の学生が同じキャンパスで学び、サークル活動など日常生活をともにすることにより、見識を広め、将来お互いが医療の各分野におけるプロフェッショナルとなった時に必要とされるチーム医療の礎を築くことができます。



Global 海外の大学等との積極的な国際交流プログラムを実施

東京医科歯科大学では、ハーバード大学、インペリアルカレッジ、ノースカロライナ大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校、オーストラリア国立大学との学生交流協定、学部学生海外研修奨励賞に基づき、本学学生の海外派遣など国際交流に積極的に取り組んでいます。それは、本学が国際水準を超える医歯学教育のさらなる展開と、世界に通用する臨床医・研究者の育成を目指しているからです。また、ハーバード・メディカル・インターナショナルとの医学教育連携のもと、知識や技術にとどまらず、患者さんのための医療を優先する本来のあるべき姿・考え方、高い倫理観を備えた真の医療人養成に尽力しています。



Cooperation 「四大学連合」（医科歯科大・一橋大・東工大・東京外語大）で、さらに広がる「学び」

さまざまな分野の学術拠点が集まり、最新情報をタイムリーにキャッチできる大都市・東京には、勉学はもちろん、医療人・国際人としての教養を幅広く身につける上で望ましい環境がそろっています。一橋大学・東京工業大学・東京外国語大学と本学が協力して発足した「四大学連合」は、各大学が独立性を保ちながら密接な連携を図り、「複合領域コースの設定」「編入学の実施」「複数学士号の取得」などを実現して、一大学ではなしえない教育プログラムを提供するものです。豊富な知識と広い視野を有する人材を育て、広く社会に貢献しています。



医学と歯学とが共存する
東京医科歯科大学ならではの
教育を実践する。

東京医科歯科大学は、国内唯一の医歯学系総合大学院大学です。医学部と歯学部の教員が教育の現場で相互に協力するのはもちろん、学生も同じキャンパスで学ぶことで、互いの最新情報を共有することができます。学びを深めるなかで、興味や関心が高まり、医学の知識を基盤に歯学に取り組むことも、歯学の知識を基に医学へ発展することも可能。医学・歯学両分野にわたる人材の育成を目指しています。

学部・学科紹介

医学部

医学科

保健衛生学科

- 看護学専攻
- 検査技術学専攻

歯学部

歯学科

口腔保健学科

- 口腔保健衛生学専攻
- 口腔保健工学専攻

Contents

学長挨拶	1
教育理念 アドミッション・ポリシー	1
医学部長・歯学部長挨拶	5
■ 医学部	
医学科	7
保健衛生学科 看護学専攻	15
保健衛生学科 検査技術学専攻	19
■ 歯学部	
歯学科	23
口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	31
口腔保健学科 口腔保健工学専攻	35
■ 教養部	39
■ 大学院	
医歯学総合研究科	41
修士課程 医歯理工学専攻	43
修士課程 医歯理工学専攻 医療管理政策学 (MMA) コース	44
博士課程 医歯学系専攻	45
博士課程 生命理工学系専攻	47
保健衛生学研究科	49
看護先進科学専攻	51
共同災害看護学専攻	52
生体検査科学専攻	53
■ キャンパス概要	
国府台地区	55
湯島地区・駿河台地区	57
生体材料工学研究所	59
難治疾患研究所	60
■ キャンパスライフ	
図書館	61
健康管理センター 学生・女性支援センター	62
学生支援制度・年間行事	63
サークル活動	64
国際交流	65
卒業後の進路	68
入試情報	69
沿革	70

世界をリードする国際性 豊かな医療人を育てる。

医学

医療人として社会に貢献したいと
考えている人たちを歓迎します。
あなたの成長に必要な
教員・施設・環境がそろっています。

医学部は、日本及び世界の医学界をリードしています。
我々とともに成長し、活躍できる人材を歓迎します。もち
ろん勉強ができるだけでなく、患者さんの立場になって考
えられる思いやりが無ければなりません。どうぞやさしい
気持ちを持ち続けてください。

本学は教育に力を入れています。教員・施設・環境がそ
ろっている中で、しっかり学んでください。海外研修の機
会も多く用意しています。積極的に海外に出かけて見聞を
広め、世界で活躍できる人材に育ってください。

医学研究においても優秀な教員・研究者が多数います。
研究面でもあなたの活躍を期待しています。医学部附属病
院では、研究に裏打ちされた最先端の医療を行っています。
知識・技術・思いやりにあふれたすぐれた医療人になっ
てください。しかし、成長するためには乗り越えなければな
らない壁もあります。常に前向きな気持ちを持って進んで
ください。

我々は、そんなあなたの成長を全力でサポートします。

医学部長
江石 義信

歯学

歯科医学・歯科医療への大きな夢を
かなえる場所がここにはあります。

歯学部は、歯学科と口腔保健学科（口腔保健衛生学専
攻、口腔保健工学専攻）から構成される、国立大学とし
て最も古い歴史を有する総合的歯学教育機関で、2015
年分野別 QS 世界大学ランキングの歯学分野では日本第
1 位、世界第 6 位の高評価を獲得しています。歯科医学
のフロントランナーとしてふさわしい経験豊かなスタッ
フ、充実した施設、多彩な授業・実習コンテンツを擁し、
基礎から臨床に至るすべての分野を網羅した質の高い教
育を提供するとともに、一般医学、保健、福祉の知識を
広め、多職種と連携して活動するための技能の涵養にも
努めています。

また、海外の学術交流協定校における研修プログラ
ムを通じて、国際感覚を身につけた人材の育成にも取り組
んでいます。多様性に富む質の高い教育を実践すること
で、幅広い知識と高度な技術を身につけ、高い倫理観を
持って活動する歯科医学・歯科医療におけるリーダーの
養成を目指しています。

大きな夢と志を持った多くの若者が、本学歯学部の門
戸を叩いてくれることをぜひ期待しています。

歯学部長
森山 啓司

医学部

医学科

求める学生像

- (1) 医学・医療に深い関心を有する。
- (2) 協調性とコミュニケーション能力に優れている。
- (3) 創造性とチャレンジ精神に富んでいる。
- (4) 高い倫理性を備えている。



最先端の研究と医療の場から、 国際社会で活躍できる医療人を輩出する

医学とは、さまざまな疾患の治療と予防、健康の保持・増進について研究し、その成果を広く医療・福祉に応用するための学問です。

本学科ではこれを踏まえ、動物材料や臨床材料を用いた最先端の基礎的研究を、附属病院では最新の医療機器と最高の知識・技術を持つ医師団による医療が進められています。

本学科では、日々の学びを通して基礎から臨床にわたる広い分野の知識と技術を習得することが求められます。

卒業時に到達すべきレベルは、卒業時コンピテンシー (<http://www.tmd.ac.jp/artis-cms/cms-files/competency.pdf>) に示されています。

卒業後は、医師あるいは医学の教育・研究に関わるさまざまな分野の指導者として、医学・医療の進歩に力を尽くし、国内のみならず国際社会で活躍することが大いに期待されています。

教育内容

高齢化が進む社会において、これからの医療はますます重要な分野となります。本学医学科は、将来のこの分野のさまざまな課題に対処できる指導的医療人の育成を目標とします。そのために、自律的な行動力と広い視野を獲得し、高い水準の問題解決能力を開発できるよう、新しいカリキュラムを構築しました。具体的には以下の構成で教育が予定されています。

1年次は教養部で全学共通科目を学ぶと共に、後期になると週一日、湯島地区で行われる医学導入において、早期臨床体験実習等を通じて医療人としての意識を高めます。2年次から4年次にかけても、引き続き教養教育は行われますが、生体と病気のメカニズムについても講義・実習を通じて深く学びます。特に4年次にはプロジェクトセメスターと呼ばれる長期の自由選択学習が実施され、自ら興味を持った課題について半年間研究を行い、科学的な考え方、結果のまとめ方を学びます(10p参照)。また、基礎医学の研究者養成コースも設けられ、希望者には課外の時間を利用して2年次より研究を開始することも可能になります。さらに、研究を継続したい学生は、一時大学院に進学し医学博士号を取得した後、復学するMD-PhDコースも用意されています(11p参照)。

その後は、臨床導入実習で基本的診察技法を習得します。全

国共用試験を経て、医学部附属病院のみならず関連病院、診療所や在宅医療機関を含むさまざまな医療現場で約1年半にわたっての診療参加型臨床実習が行われます(10p参照)。この実習では医療チームの一員として学ぶために院内携帯電話や学生用電子カルテなどが用意され、臨床推論について徹底的に学びます。一方、リーダーとしてのコミュニケーション能力開発のため、チュートリアル等、少人数で討論を行う機会、プレゼンテーション技法の訓練の機会等も豊富に設けられています。また、医療系総合大学の強みを生かした歯学科との融合教育や保健衛生学科(看護学専攻・検査技術学専攻)、口腔保健学科(口腔保健衛生専攻、口腔保健工学専攻)や、星薬科大学薬学部薬学科、早稲田大学社会福祉科学科とチーム医療について学習する機会も用意されます。

さらに、国際化が進む将来を見据え、英語で医学を学ぶ講義が1年次後期から3年間にわたって行われるほか、海外研修奨励制度や海外の一流提携大学で学ぶ機会も用意されています(11、12p参照)。また、全国最大規模のスキルスラボ(臨床手技習得のためのシミュレーション機器を備えた学習室)、国際的に通用する教科書をオンライン上で参照できるe-learning環境など先進的な学習環境が整えられています(61p参照)。

カリキュラム構成図

	カリキュラム内容
1年生	教養教育 医学導入
2年生	基礎医学 頭頸部・基礎
3年生	臨床医学 頭頸部・臨床 老年医学
4年生	プロジェクトセメスター 臨床導入実習
5年生	臨床実習 包括医療統合教育
6年生	卒業試験

医歯学融合教育(多職種連携教育)

授業科目

医学導入	公衆衛生学
人体構造総論	臨床医学導入
細胞生物学	循環器
神経生理導入	呼吸器
生理学	消化器
医歯学基盤教育	体液制御・泌尿器
組織学	内分泌・代謝
人体解剖学	一般外科
頭頸部・基礎	血液・腫瘍
薬理学	神経科学・臨床
生化学	骨・関節・脊椎
分子遺伝学	皮膚・アレルギー・膠原病
神経解剖学	感染・臨床
免疫学	頭頸部・臨床
神経科学・基礎	老年医学
感染・基礎	生殖・発達
東洋医学	救急・麻酔
病理学	自由選択学習
医動物学	臨床導入実習
腫瘍学	臨床実習
法医学	包括医療統合教育
社会医学	研究実践プログラム
衛生学	地域医療学習プログラム

将来の自分を培う魅力あるカリキュラム。

医学の基礎を確かなものにするために、問題解決能力、自己学習能力を養い、
医学を学ぶ面白さを実感できます。さらに、治療チームの一員としての役割を担うことで、
患者さんの信頼に応え、医師としての喜びを体験できます。

■医学導入

1 年次後期に週 1 日湯島地区で履修するコースで、医療人としての基盤形成とともに、将来グローバルに活躍する医師・医学研究者としてのキャリアビジョンの創出を目的としています。医学の歴史と今後の展望について学び、国際人としての意識と広い視野を育むための小グループ英語議論に参加し、「受け身型」から「能動的で問題解決型」へと学びのモードをかえるためのさまざまなセッションに参加します。

また、多彩なフィールドで活躍する先輩医師・医学研究者の講演を聞き、実際に彼らと半日をともに過ごし活躍の様子を垣間みて、将来のキャリアビジョンを創出します。さらに、教育・診療・研究施設の見学、先輩である医学科 5 年生の臨床実習の見学、シミュレーターを用いた蘇生実習、看護師や新患の患者さんと半日を過ごす実習などを通して、2 年次から始まる医学専門教育に向け意識を高めます。

■グローバルコミュニケーション教育

グローバル化が進む中で、医師・医学研究者として地球的規模で活躍していくには、その共通言語である英語を使いこなせなければなりません。そこでは、言語としての英語にとどまらず、国際舞台で情報を発信し、意見交換できる力が必須です。本学医学科のグローバルコミュニケーションコースでは、並行して学習する基盤教育、そして医学専門教育と協調・連携させ、学習ステージにあった健康・医学関連トピック記事や症例をもとに、英語を使って情報を収集・共有し、議論して問題解決を図るトレーニングを徹底して行います。



伊関 麻理恵
医学部 医学科 3 年

■世界の医療問題を "Global" な視点から分析し、解決する力を培う英語教育

私は将来、難治疾患に関する最先端の研究を通してその治療の発展に貢献したいと考えています。そのためには、世界中の医師や研究者とのコミュニケーションの中で常に情報を受信・発信しながら、直面している問題の解決策を考える必要があります。

医学英語の授業では、世界を見据えた高い意識を持つ同志たちとさまざまな医療問題について英語で議論や発表をする場が多く設けられています。また、いま実際に国際的な舞台で活躍している方々や外国人留学生と交流し、世界の医療に関する情報をリアルタイムに取得できます。その中で、“Global” な視点を持って問題を分析・解決するために不可欠な積極性や主体性、高度な知識、そして英語運用能力を身につけることができます。

私も本学の英語教育を通して得られるチャンスを最大限に生かして "Global" な医師になるための礎を築くことができるよう、日々努力していきたいと考えています。

■統合型教育

診療現場や研究領域における問題解決型思考能力や、生涯学習に必須となる自己学習能力の養成を目的に、これまで 4 つの領域（消化器、腎・体液制御、呼吸器、腫瘍学）で実施していた統合型（ブロック型）教育を、全ての臨床系科目に拡大します。統合型（ブロック型）教育では、従来の臨床科目別の系統講義ではなく、関連する臨床系分野が 1 ～ 4 週間のブロックを形成することで、症候から病態生理を中心に集中的に学習する環境を提供します（全 16 ブロック）。

各ブロックの最初にはそれまでに学んだ基礎医学の知識を賦活化するセッションを組み、基礎及び臨床医学の知識の統合を図ります。これまでの PBL（Problem-Based Learning）チュートリアルのほか、知識の確認・応用とグループ討論を促す TBL（Team-Based Learning）を導入し、症例提示型学習による自己問題提起・解決能力とチーム内でのコミュニケーション能力を養成します。関連講義には基礎医学内容も統合されており、基礎医学領域への関心が誘導されるよう配慮されています。

■統合型教育を学んでの感想

「関連する分野を集中して学べて良かった」。「ブロック形式の授業は、問題発見型学習を学ぶ良い機会になったと思う」。「医学的な情報にアクセスすることやプレゼンテーションすることに慣れることができた」。「医学そのものを学ぶというよりも、学習の仕方を教えてもらった点が、非常に将来的に役に立つと思われる」。皆さんも、ぜひこの統合型教育を体験してみてください。

■自由選択学習（プロジェクトセメスター）

主な講義・試験及び基礎実習を終えた 4 年次に設定されている最長 6 ヶ月のコースです。興味をもった分野について集中的に学ぶことにより、科学的視点を有する医師としての基盤を養成します。本学の諸講座、附属研究所のほか、学外研究機関、さらには国際交流協定校のインペリアルカレッジ（イギリス：ロンドン）などにおける履修の機会もあります。全学生の研究成果は、発表会の場においてポスター展示及びプレゼンテーションが行われ、お互いに共有することになります。



和田 良樹
医学部 医学科 5 年

■医学の最先端を学び、研究の意義を体感するプロジェクトセメスター

プロジェクトセメスターでは、6 カ月間、研究の過程を体験し、医学の最先端を学びます。学生はさまざまな研究分野から 1 つのテーマを選択し、実験の立案からポスター発表、さらには学会発表や論文作成まで自分の意志で進めていくことができます。

医師は、患者さんを助けることだけではなく、未解明の医学的課題を研究することも社会から求められています。得られた研究成果は、例えば新薬の開発といった形で未来の患者さんの利益につながります。このように医療と研究は相互に関わり、医学は発展してきました。

私自身は国際環境寄生虫病学分野に所属し、未だ根絶が果たされていない 3 大感染症の 1 つ「マラリア」の遺伝学的方法を用いた予防策に関する研究を行いました。テーマに関わる文献を読み解き、研究方法を考え、実験を行い、得られた結果を考察するという過程には、座学では味わえない面白さ、難しさがありました。この経験は、将来臨床の現場で患者さんの抱える問題を考察し、治療を行う際にも活きるものだと考えています。また、多忙な中でも丁寧に指導してくださった先生方や研究に関わる議論をした大学院生、学部学生の方々と共に過ごした時間は、研究を進めるうえでも医師としての将来像を考えるうえでも非常に有意義なものとなりました。

皆さんもぜひ、プロジェクトセメスターを通じて研究の意義やその楽しさ、やりがいに触れてみてください。

■診療参加型臨床実習

医学科での 4 年間にわたり修得した知識を総動員して、診療チームの一員になり、患者さんの持つ複雑な臨床問題の解決に主体的に参加する実習です。5 年次から 8 つのコア診療科（内科 3、外科 2、ER 1、小児科 1、産婦人科 1）を含む、4 週間ずつの 16 ローターションを通して、臨床医になるために必要な活きた知識、技能、態度を修得します。

診療チームの一員としての役割を担うため、院内 PHS 及び学生用電子カルテへのアクセスカードが貸与されます。そして診療チームの一員として入院時の問診、診察を行い、回診では受け持つ患者さんについてプレゼンテーションを行い、方針決定の議論に主体的に参加します。また、主治医によるインフォームドコンセントや手術の立ち会い、またソーシャルワーカーを交えての退院計画立案にも参加することにより、医療全体の流れをつかみます。

患者さんの信頼に応え、臨床問題を解決していく過程で、医師としての喜びとともに責任を体験し、プロフェッショナリズムを養います。



関 隆実
医学部 医学科 6 年

■丁寧な指導体制の中、“自ら”学ぶことができる診療参加型実習

本学の臨床実習は学生が主体的に診療に参加できることが特徴だと思います。学生は、診療チームの一員として最も患者さんに近い立場で診療に参加します。具体的には、身体診察や病歴聴取などを研修医の先生の指導のもと行い、そこで得られた所見や症状を指導医の先生方と一緒に考察し、回診やカンファレンスにて発表者としてプレゼンテーションします。座学の講義だけでは学びきれない病態や診察法、治療法について先生方から丁寧にフィードバックをしていただけるため、とても勉強になりますし、患者さんの症状・病態を正しく発表するために、より一層の理解としっかり発表する力を身につけることができると思います。さらに、患者さんの診療だけでは網羅しきれない手技や疾患についても先生方がレクチャーを開いてくださるため、しっかりと学ぶことができます。このように先生方の丁寧な指導のもとで自分も主体性を持って日々興味深く学ばせていただいています。



国際的医療人育成のために。

21 世紀の最先端の医療と生命科学に対応できる医療人の育成を目指し、
言語のみならず、品格、知識、態度、技能いずれにおいても、
国際社会に通用する医学のリーダーを育てます。

■インペリアルカレッジとの交換留学プログラム

4 年次中期のプロジェクトセメスターの期間中に、毎年 5 名の学生にイギリスの名門校インペリアルカレッジに留学する機会が与えられます。一流の研究者の指導を受け、さらに世界中から集まって来ている研究室メンバーへのプレゼンテーションやディスカッションを行いながら、半年かけて研究プロジェクトを進めます。またインペリアルカレッジからの学生の受け入れも毎年実施しており、彼らの滞在中に本学学生との活発な交流が行われます。



吉田 真梨子
医学部 医学科 5 年

英国における最先端の基礎医学研究

4 年次のプロジェクトセメスター期間中、英国の Imperial College London に 5 か月間留学させていただきました。私は、The Section of Anaesthetics, Pain Medicine and Intensive Care (APMIC) にて、高田正雄教授のご指導の下、急性肺障害に関する研究に取り組みました。初めての海外留学でしたが、実験について研究室のメンバーとディスカッションを重ねたり、ミーティングでプレゼンテーションをする機会をいただいたり、充実した研究生活を送ることができました。また、研究室には基礎医学研究を志す英国の医師が多く在籍しており、彼らとの交流を通じて日本と英国の医療や文化の相違、将来自分が目指す医師像について深く考えさせられました。

英国にて 5 か月間にわたって最先端の基礎医学研究に身を置くのみならず、現地の医師や医学生と交流し見聞を広げることもできることが本プログラムの魅力ではないかと思います。



■MD-PhD (医学研究者早期育成) コース

優れた医学研究者を育成するための早期医学研究トレーニング特別プログラムです。このコースでは、従来のように医学科卒業後に大学院に進学するのではなく、医学科 4 年次あるいは 5 年次修了後に、医学科の学籍を一時離れ、大学院に進学します。それにより、医学科における基礎的な医学教育を発展させ、体系だった高度な医学研究を経験することを目的としています。大学院在学中に博士論文を完成した者は審査を行い、合格者には博士の学位が授与されます。大学院修了後は医学科 5 年次あるいは 6 年次に戻り、医師免許の取得を目指すことになります。



竹村 公佑
(医学部 医学科
平成 26 年度卒業)

さまざまな角度から医学と向き合える魅力的なコース

私は、医学科第 5 学年の臨床実習を経験した後に MD-PhD コースに進学しました。人体病理学分野に所属して、消化器癌の新規診断マーカーや予後予測因子についての研究を行いました。当教室ではオーストラリア国立大学 (ANU) との共同研究を行っており、博士課程の第 2-3 学年にわたって ANU に留学する機会にも恵まれました。国内外を問わず、かけがえのない人々との出会いを通じて視野を広げることができました。

20 代前半の知力・体力の充実した時期に集中的に医学研究者としての思考法・知識・技術を習得するトレーニングを開始することは極めて有意義です。将来的に臨床医を志すにせよ、研究医を志すにせよ、臨床医学とともに医学の根幹を担っている基礎医学に対峙する時間は何物にも代えがたいものです。

研修医として働き始めた今となっても、本コースで得た経験が活かされる場面に幾度となく遭遇しており、胸を張って推奨できるコースであると言えます。本コース出身者の縦・横の繋がりは強く、生涯を通じて切磋琢磨し合える仲間があなたを待っています。

■パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの医学教育連携

本学は 2002 年よりパートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの間で、医学教育に関する提携を結んでいます。ハーバード大学医学部は、研究面のみならず、臨床面においても世界トップクラスとの評価を受けており、優れた教育者及び教育システムを有しています。パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの提携を通し、グローバルに活躍する医師・医学研究者を輩出するために本学の医学教育の質をさらに向上させるべく積極的に取り組んでいます。その一環として、正規カリキュラムとして「ハーバード大学の学生とともに学ぶ臨床実習」を設定し、毎年 6 年次学生数名 (2014 年は 10 名) を派遣してきました。また教員も毎年派遣して研修を行っています。

■学生派遣プログラム

この派遣プログラムは、ハーバード大学医学部関連病院で臨床実習に参加するという大変有意義な機会を提供します。6 年次初めの 8 週間、派遣された学生は 4 週間ごとの計 2 つのローテーションよりなる臨床実習に従事します。ハーバード大学医学部学生と互いに切磋琢磨し合いながら、診療チームの一員として臨床問題解決に主体的に参加します。

派遣のための選考は、5 年次に、英語による志望動機書、英語による小グループ議論、そして面接により行われます。選考された学生は、その後 6 ヶ月半に渡り、英語による病歴聴取、診察、症例プレゼンテーションと議論、記述などの実践的な技能修得のためのトレーニングに従事します。そして最後に、ハーバード大学医学部による電話での英語面接に合格して、晴れてボストンでの実習に参加できます。

今後は、より多くの学生が海外の医療機関で臨床実習を行えるよう、国際性を磨く機会を創出していきます。



2010 年派遣学生



2013 年派遣学生

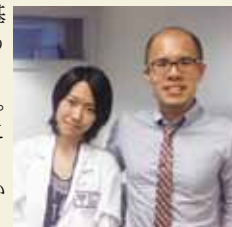


中沢 真依
(医学部 医学科
平成 26 年度卒業)

■世界有数の環境で学び、広い視野を自分のものに

ハーバード大学関連病院には世界中より素晴らしい医師、医学生が集まってきています。そのような環境において実習できたことによる収穫は、多くを学べたということのみならず、医師としての基本的な姿勢など、さまざまな点において彼らから良い影響を受けることができたという点にあったと思います。

また学生の段階で、臨床留学を体験することができたことも貴重な経験となりました。海外の病院で働く、という漠然としたイメージしかなかったものも、実際に経験することで明確な形となり、将来のビジョンとして考えやすくなりました。本プログラムでは、派遣前学習から現地での実習にいたるまで得がたい経験をさせていただきました。今後はこれを医師として生かし、社会に貢献していきたいと思います。



田代 燦
(医学部 医学科
平成 26 年度卒業)

■米国での最先端の研修とかけがえのない経験

ハーバード大学医学部関連病院には、世界中から一流の医師や、やる気に満ち溢れた優秀な医学生が集まっています。そこでは世界最先端の研究や治療が日々行われています。そんな素晴らしい環境に実際に身を置いて研修できたことは自分にとって非常に貴重な経験でした。米国では、学生レベルでも担当患者の病状・治療法について考察し、先輩医師たちと話し合うことが求められ、語学力はもちろん、高い洞察力やコミュニケーション能力が必要とされました。米国での研修を通して一回り成長することができたと感じています。どこで働くにあたってでもここで学んだ経験は生きてきます。今後は医師として人々を救うために、この素晴らしい機会と経験を社会に還元していきたいと考えています。



講義・実習風景

■ シャドーイング ■

1年次に医学部附属病院の医師、研究者、看護師、及び初診患者さんにつき、診療の現場を見学する。1年間に5回設定。早期から医学、医療の現場を実感させる、本学ならではの体験型実習の一つ。



■ 人体解剖学実習 ■

人体の構造を学ぶため、3年次が14週かけ週2～3回行う実習。人体解剖学の講義後に、脳を除く人体の各部位を一体につき4人ほどで解剖。献体者に感謝と敬意を表し、実習前には必ず黙祷が捧げられる。



先輩から

自ら学び、深められる環境

MESSAGE FROM A SENIOR



前川 彩
(医学部 医学科 平成25年度卒業)

医師には、医学知識や技術のみならず、コミュニケーション能力や倫理観、責任感など幅広い能力が不可欠です。本学では6年間かけてプロフェッショナリズムを身につけられる学習環境が提供されています。

教養部と基礎・臨床医学講義を経て、4年次には自分の興味ある分野での最先端の研究に携わり、問題提起・解決能力を養えました。続く臨床実習は診療参加型であり、屋根瓦式指導のもと、診療チームの一員として患者さんと接することで、見学のみでは学ぶことのできない多くの経験ができました。また6年次に臨床留学する機会をいただき、将来の進路や日本の医療について新たな視点を得られました。

医療現場で働き始め、6年間の学生生活がいかに充実していたか再認識する日々です。本学での学生生活はその先へとつながる有意義な時間を与えてくれると信じています。

■ 病理学実習 ■

第3学年から第4学年にかけて行われる各臨床ブロック内において、臨床講義の内容に関連する症例を顕微鏡にて観察することにより、組織学的変化を理解するとともに臨床的内容もより深く理解する機会を提供する。



■ プレク拉克シップ ■

臨床実習を前に、5年次に3ヶ月かけて行われるトレーニング(2011年度)。模擬試験に合格すると臨床実習で患者さんの診察ができる。写真は、日本最大のスキルスラボでの胸部シミュレーターを使った肺の聴診。



■ クリニカル・クラークシップ ■

5年次から6年次にかけ、1グループ4～5人に分かれ、医学部附属病院の各診療科を4週間ずつ回る。必修の診療科と選択の診療科があり、実際に患者さんを受持ちながら学ぶ。



指導者として活躍する卒業生から

申し分のない環境で 素晴らしい才能を開花させてください



東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
腎臓内科学分野 教授
内田 信一
(医学部 医学科 昭和60年度卒業)

MESSAGE FROM A SENIOR

現在の東京医科歯科大学医学部医学科は、建物・施設などのハード面、カリキュラムや教育関連スタッフなどのソフト面ともに、私が入学したときからは想像もつかない程の発展・充実ぶりを示しています。また、それに伴い、国内外の医学界における研究・診療・教育のあらゆる分野において、当大学卒業生の存在感が急速に増大していると感じております。総合大学ではないデメリットもあるとは思いますが、コンパクトな分、学生同士や学生と教員・職員との距離感が近く、困ってもすぐ周囲に相談できる誰かがいる安心感がこの大学にはあり、医師となった後も多くの同窓の先輩のご支援により、個々の目指す分野で十分なキャリアを積むことができます。

このような素晴らしい環境に、新たな若い才能が絶えず加わることで、医科歯科大学のよりいっそうの飛躍に、ひいては社会への貢献につながります。ぜひ、未来の医学界で指導的立場を担う皆さんをお待ちしております。

医学部

保健衛生学科

看護学専攻

求める学生像

- (1) 看護学・保健医療福祉に深い関心がある。
- (2) 豊かな感性と優れたコミュニケーション能力を有する。
- (3) 論理的思考力、問題解決能力を備えている。
- (4) 倫理的感受性と探究心に富む。



知識と技術を高め、実践と研究を通して看護のエキスパートを養成する

看護実践能力の高い看護師の養成を目的として、

体験学習を重視し、自己理解を深めながら専門職にふさわしい感性を磨き、コミュニケーション能力の向上を図ります。

臨地実習では、看護技術の到達点を確認しながら学習できる独自の

教育システムを用いて、医学部附属病院などの医療施設や地域との連携をもとに、あらゆる健康レベルの人々に対応した看護を展開します。

卒業研究には3年次から取り組み、ゼミを通して研究を深めます。

また、日本初の看護系大学院大学として、臨床現場のスタッフと

実践・研究・教育のさまざまな側面での連携を図るとともに、

卒業生をはじめ看護学を発展させていきたいと思っている

たくさんの人々の活躍を支援しています。

教育内容

看護学専攻では、医療の高度化を支える自然科学・技術並びに生命倫理に関する基礎的な理解を深め、多様化する社会や文化の中で人間が生きることを支える人文科学・社会科学的な素養を併せ持つ看護実践者を養成します。

看護学の教育・研究・実践を基盤に、あらゆる健康レベルの人々に向けた保健医療福祉に関する専門知識を幅広く修め、省察できる能力を養うことで、関連職種との連携・協働を主体的に担うことのできる対人関係能力を備えた看護師の養成と、生涯学習の支援を重視しています。

1年次には、教養部で全学共通科目（人文、社会科学、自然科学、外国語など）を履修し、週1回は専門基礎分野の解剖学及び看護専門科目（基礎看護学、看護心理学、看護の統合と実践）を学びます。

2年次前期には、看護学に関連の深い解剖学、生理学、病態学、薬理学、栄養学などの専門基礎科目を講義と演習によって集中的に学びます。専門共通分野の医療情報学などはこの時期に始まります。2年次で学ぶ看護学専門科目の軸は基礎看護学の講義と演

■カリキュラム構成図

学 年	カリキュラム内容			
1 年生	専門基礎分野 解剖学	専門領域分野 基礎看護学 看護心理学 看護の統合と実践	臨地実習 基礎看護学	全学 科 共 通 科 目 (教養部)
2 年生	解剖学 病理学 生理学 生化学 病理学 薬理学 他	基礎看護学 成人看護学 精神看護学 小児看護学 在宅看護学	基礎看護学	
3 年生	専門共通分野 医療情報学 保健医療福祉制度論	成人看護学 精神看護学 小児看護学 母性看護学 老年看護学 在宅看護学	成人看護学 精神看護学 小児看護学 母性看護学 老年看護学 在宅看護学	外国語 (TOEFL)
4 年生	専門共通分野 保健統計学 保健医療福祉制度学 国際保健看護学 他	地域看護学 看護の統合と実践	地域看護学 看護の統合と実践	

■授業科目

■専門基礎分野

解剖学Ⅰ・Ⅱ
生理学
生化学
薬理学Ⅰ・Ⅱ
病理学
微生物学
栄養学
疫学
病態学
英文講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
専門基礎合同演習

■専門共通分野

保健統計学
医療情報学
国際保健看護学
産業保健学
保健医療福祉制度論
健康教育学演習
卒業論文Ⅰ・Ⅱ
実践看護英語
国際保健福祉

■専門領域分野

基礎看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
基礎看護学演習Ⅰ・Ⅱ
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
成人看護学演習
成人看護学実習
精神看護学
地域精神看護学
精神看護学演習
精神看護学実習
看護心理学
小児看護学Ⅰ・Ⅱ
小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ
小児看護学実習
母性看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
母性看護学演習
母性看護学実習
老年看護学
リハビリテーション看護学
老年看護学演習
老年看護学実習
地域保健看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
地域保健看護学演習
地域保健看護学実習
在宅看護学Ⅰ・Ⅱ
緩和ケア看護学
在宅看護学演習
在宅看護学実習
看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ
看護の統合と実践実習Ⅰ・Ⅱ

講義・実習風景

■保健医療福祉制度論■

看護の専門領域に共通して必要な基礎科目。2 年次開講。医療人として多くの人々の保健医療福祉に携わるために、国民の健康を守る制度や仕組みについて学ぶ。医療保険制度、福祉制度、介護保険制度等のみならず、年金制度、雇用・労災保険、諸外国の保健医療福祉制度についても学習する。



■臨地実習■

臨地実習は全学年に配置されているが、3 年次の9 月末から約半年間の臨地実習期間に入る。病院や高齢者施設だけではなく、対象者のご自宅にも訪問して、座学で学んだ医学的知識や看護学の理論や技術を、日々の看護実践の中で展開する。決して楽ではないが、楽しい。そこでの出会いが看護師としての責任の重さを痛感させると同時に、もっと勉強したいと思うようになってくれるから不思議だ。



■実践看護英語■

国際的に活躍できる人材を育成する大学全体でのプログラム“グローバル人材養成プログラム”の特別科目。国際組織や海外の医療・教育・研究機関で用いられる看護及び医療専門用語の習得と、国際社会で必要とされるプレゼンテーション能力を高めることを目指し、英語を母語とする教員による講義である。2 年・3 年次において受講生を選抜し、開講している。



■地域看護学実習■

4 年次には地域看護学実習に出かける。活躍の場はコミュニティである。地域看護学実習で学んだ、病気の人だけでなく、問題だけでもない、疾病の予防やヘルスプロモーションといった、幅広い保健師の活動について自分たちが学んだことを発表し、意見を交換する。地域社会の中でもまれることで、人間として一回りも二回りも成長させてくれる。



■基礎看護学演習■

2 年次に他の専門領域の科目の学習に先立って、看護の基本、土台となる知識・技術を身につける。看護の対象となる人々の心身の健康状態、バイタルサインの計測観察の演習。



■成人看護学演習■

3 年次前期では、シミュレーション教材なども活用して、実際の臨床場面を想定した演習を行う。既習の病態や成人看護学の講義内容と関連付けて、実践的な看護技術や知識、看護計画の展開について学び、続く本学附属病院をはじめ、多くの現場で実習をし、看護をすることの意味を見つける。



■卒業論文ゼミ■

4 年次の4 月から12 月の卒論発表会まで通じて行われるゼミ。3～8 人のグループに分かれ、学生ごとに異なるテーマで看護研究に取り組み、成果をまとめて発表する。大学院生とも時空を共にし、研究者の卵となる。



先輩から

MESSAGE FROM A SENIOR

和気あいあい、そして日々成長していける学習環境

本学では学内外の先生方から最先端の看護と医療を学ぶことができます。2 年次では専門基礎知識を重点的に学び、3 年前期ではグループワーク中心の授業で事例検討を行います。学生同士で意見を出し合いながら実践的な演習を行い、これまでに学んだ知識を互いに高めあいました。3 年後期は臨地実習となります。実習前は不安でいっぱいでしたが、同じグループの仲間や先生方の支えもあって、大変学びの多い充実した半年間となりました。

看護学専攻のクラスは少人数のため、みんな仲良しで和気あいあいとした雰囲気です。また、さまざまな分野に興味を持った向上心の高い学生が集まっているため、日々刺激を受けながら成長していける環境だと感じています。



平柳 愛理沙
(医学部 保健衛生学科
看護学専攻 平成 26 年度卒業)

医療現場で活躍する卒業生から

MESSAGE FROM A SENIOR

卒業後も学び続けられる環境で、充実感をもって仕事に取り組む

本学附属病院では、学生から新人教育までを一貫したものと考え、サポートする体制が構築されています。学生と看護師スタッフとの交流会を通じて現場の生の声を聞くことができ、人事交流の目的で看護師スタッフが学生に実技指導を行うこともあります。私が学生の時にはなかったアールームという実習場所もあり、学びやすい環境が整っています。

働き始めてからも研修体制がしっかりしており、学びながら働くことができる病院です。日々患者さんが元気に退院していく姿や、スタッフが成長していく姿をみて充実感を覚えながら働いています。



東京医科歯科大学医学部附属病院
看護部
野秋 蘭子
(医学部 保健衛生学科
看護学専攻 平成 6 年度卒業)

医学部

保健衛生学科

検査技術学専攻

求める学生像

- (1) 医学・保健医療に深い関心を有し、患者・要介護者や社会に対する奉仕の精神、責任感、倫理観を有している。
- (2) 豊かな人間性を持ち、観察力、論理的思考力、問題解決力、総合判断力を備えている。
- (3) 継続的に自己啓発し、探究心が旺盛である。



知識・技術・実践から学問を極め これからの保健医療に貢献する

本専攻は国立大学検査系のパイオニアとして、検査技術学の教育・研究を通して、医学保健医療についての豊かな教養と幅広い専門知識を持つ医療人を育成することを目的としています。

専門的・学術的な視点に立った教育を行い、これからの保健医療に対する社会の要請に応えられる人材を養成しています。

その特徴は、先端医療技術の進展に対応できる学際的視野と研究能力を修得し、医学・保健医療における検査技術の発展に寄与し、新たな世代の指導にあたる研究者・教育者を養成する点にあります。

全国の国立大学法人の先陣として、1989年に発足して以来、本学を巣立った卒業生が、研究・教育機関の指導者・研究者として、あるいは病院の臨床検査技師として活躍し、その将来を期待されています。

教育内容

- 1) 専門的かつ学術的な視点から教育を行い、臨床検査学の基礎から最先端に至る知識と技術を修得する。
- 2) 検査管理能力を修得する。
- 3) 医療や医学研究に携わる者としての基本的な教養、倫理観、責任ある態度を身につける。
- 4) 新しい臨床検査技術の開発や関連分野における独創的研究の基礎となる、科学的な思考法を身につける。

1年次には主に教養部で全学共通科目を履修しますが、医療人としての高いモチベーションを持って勉学に励んでもらえるように、病院見学や一部の専門科目を学び始めます。2年次の講義は基礎医学、3年次の講義は臨床医学を主体に、学生が無理なく理解できるようカリキュラムに配慮しています。形態・病態制御学系、物質・代謝学系、機能調節・制御学系、病院・病態学系に大別された主要科目では、講義と実習を組み合わせた実践的なカリキュラムとしてあります。さらに、検査管理・社会医学系、総合分野、外国語の科目を加えて、広く臨床検査学について学びます。

2～4年次に多彩な選択必修科目、自由選択科目を開講している点が

■カリキュラム構成図

学 年	カリキュラム内容
1 年生	全学共通科目(教養部)
2 年生	専門教育・基礎 (講義・実習) TOEFL
3 年生	専門教育・臨床 (講義・実習) 選択必修科目・選択科目 インターンシップ
4 年生	卒業研究 臨床実習 総合講義

本学の特徴で、大学院医歯学総合研究科、難治疾患研究所、生体材料工学研究所と連携した講義が組まれています。

4年次前期には、卒業研究として学内外のさまざまな関連分野で研究を実施し、研究発表や研究論文の作成を行い、各種の研究分野への学問的探究心を養います。4年次後期には、臨床実習により実際の検査の現場を体験します。また病院・企業・研究所などでのインターンシップも行っています。卒業試験を兼ねる総合講義では、3年次までに学んだ臨床検査の知識を整理し、臨床検査学に関する最新の知識を臨床現場の専門家から学びます。

また、多様化する社会のニーズに対応した教育内容の充実にも力を入れており、さまざまな選択科目から学ぶことができます。グローバル社会の実現に向けた全学の取り組みの一環として、本専攻でも英語教育や海外留学の支援に力を入れています。また、自由選択科目として健康食品管理士に必要な「健康食品総論」「薬理学」の2科目を学ぶことができます。

○卒業時に取得できる学位・資格
学位：学士(保健学)
資格：臨床検査技師国家試験受験資格

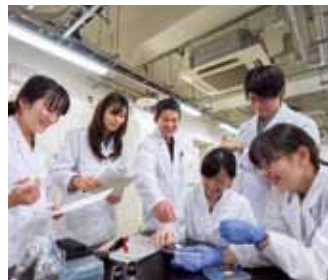
■授業科目

人体構造学講義Ⅰ・Ⅱ	卒業研究
人体構造学実習	医学英語演習Ⅰ・Ⅱ
病理検査学講義	
病理検査学実習	■選択必修科目
血液検査学講義	神経科学
血液検査学実習	遺伝学
生化学講義	生体医工学
生化学実習	パフォーマンス論
分析化学検査学講義Ⅰ・Ⅱ	分子生物学
分析化学検査学実習	心臓生理学
医用システム情報学講義Ⅰ・Ⅱ	癒しの生化学・分子生物学
医用システム情報学実習Ⅰ・Ⅱ	電子顕微鏡学
生理検査学講義Ⅰ・Ⅱ	睡眠科学
生理検査学実習Ⅰ・Ⅱ	機器分析
病原体検査学講義Ⅰ・Ⅱ	English for Health Care Sciences I,II
病原体検査学実習Ⅰ・Ⅱ	
免疫検査学講義	■自由選択科目
免疫検査学実習	健康食品総論
遺伝子・染色体検査学講義	薬理学
遺伝子検査学実習	Global Communication III
検査管理学	短期海外研修
医学情報処理演習Ⅰ・Ⅱ	
公衆衛生学講義	
公衆衛生学実習	
医療概論・関係法規	
臨床病態学Ⅰ・Ⅱ	
先端医療技術論	
総合講義	
臨床実習	

講義・実習風景

■分析化学検査学、血液検査学■

尿中成分や血中成分の定性・定量検査の原理・特徴・方法を学ぶ。他の検体の成分分析や化学検査について学ぶ。採血実習ではお互いに被験者になって基本的手技を修得する。



■生理検査学■

正常な人体の機能について学ぶ。心電図、エコーなどを用いて呼吸器、心臓、血管などを検査する方法、脳波や筋電図を利用して神経や筋肉の機能を診断する方法を学ぶ。実際に患者に接して行う検査について学ぶ。



■病原体検査学■

微生物学や感染症の診断・治療に用いられる微生物学的検査法を学ぶ。感染症の原因微生物を検体から検出・同定し、薬剤感受性試験を行い、診断治療に役立てる方法を学ぶ。



■病理検査学■

主な疾病・病変による臓器の変化、その成因を理解し、診断のための病理学的検査法を学ぶ。病理診断のための標本を作成し、染色し、顕微鏡で観察する。



■人体構造学■

正常な人体と、それを構成する細胞から器官までの基本的な形態と構造を学ぶ。模型や実物の臓器・骨などを観察、スケッチしながら学ぶ。



■免疫検査学■

免疫機能の異常による病変、その検査の原理・特徴・方法を学ぶ。輸血検査について学ぶ。



■医用システム情報学■

検査診断機器の動作原理や性能が理解できるように、電気・電子回路、通信、情報科学などの基礎を学ぶ。機器の使用、安全管理に関する技術を修得する。



■遺伝子検査学■

遺伝子の構造や疾患との関連性、遺伝子解析、その検査法を学ぶ。ヒトの遺伝子情報の倫理的な扱い、組み替え遺伝子実験について学ぶ。



先輩から

専門性の高い知識を得られる 本学の教育

検査技術学専攻は、臨床検査について学べる関東の首都圏に存在する唯一の国立大学です。授業では、標準的な臨床検査の教科書を執筆されている先生方から直接、専門性の高い全国トップクラスの教育を受けることができます。本学に特徴的な医歯学総合講義では、それぞれの分野のエキスパートを目指す他学科の学生と一つの症例について検討し、これから臨床検査技師として働くうえでの責任と自覚を感じることができます。また現在行っている卒業研究では、本学附属病院と連携し、先生方の丁寧な指導のもと、試行錯誤を繰り返しながら研究を行っています。意欲の高い学生が多いため大学院への進学率も高く、臨床検査技師に留まらずさまざまな将来性を選択することができます。本学に進学し、恵まれた環境でアカデミックな毎日と一緒に過ごしませんか。

MESSAGE FROM A STUDENT



長井 沙弥
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 4年

医療現場で活躍する卒業生から

より専門的な技術と研究的思考を 身につけて

近年の多様化した医療現場において、臨床検査技師は重要な職務の一つとなっています。業務内容は、生化学検査、微生物検査、生理機能検査、輸血検査、病理検査と多岐にわたります。どの業務においても正確な検査を行うことが基本になりますが、現場で重要なことは、ただ検査結果を報告するのではなく、自身で結果を判別し、さまざまなことを考慮したうえで、臨床側に的確かつ迅速に報告をすることです。そのためには豊富な知識と深い洞察力が必要です。本学にはさまざまな分野のエキスパートである先生方がいらっしゃるの、知識を深めることはもちろん、結果一つについてもより複合的な考え方ができるようになります。また各分野の研究も盛んですので、より専門的な技術と研究的な思考を身につけることができます。本学で受けた刺激を糧に、日々やりがいを感じつつ、楽しく現場で働いています。



順天堂大学医学部附属順天堂医院
臨床検査部
小宇佐 梨里子
(医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 平成 22 年度卒業)

MESSAGE FROM A SENIOR

歯学部

歯学科

求める学生像

- (1) 豊かな人間性と他人に対する思いやりのある人。
- (2) 柔軟で幅広い視野をもっている人。
- (3) 歯科医学・歯科医療に興味をもち、それを十分修得できる基礎学力のある人。
- (4) 問題解決や知識追求に対する意欲をもち、行動力のある人。
- (5) 歯科医療を通して国民の健康維持・増進に貢献したい人。
- (6) 適切な社会性をもち、指導的役割を果たせる積極性のある人。



伝統の裏打ちされた世界に誇る教育環境 世界の歯科医療をリードする人材を育てる

本学科は本年で創立 87 周年をむかえる日本初の国立歯学教育機関としての伝統をもち、また、2015 年 QS[※]世界大学ランキング歯学分野において国内第 1 位、世界第 6 位の高評価を得ています。6 年間の教育を通じて、日本の、そして世界の歯科医療をリードする人材の育成を目指します。入学して 3 年次までは、一般教養、人体の構造、機能、病態と学ぶ内容は多彩です。4 年次からはいよいよ歯科臨床の基礎の学びが始まります。問題を自ら発見し解決する、自己学習能力を高めるため e-learning や、動画・模型を用いたシミュレーション教育が行われます。この間、医歯学融合教育カリキュラムで医学科の学生と共に学習するのも医療系総合大学である本学ならではの特色です。そして、5 年次の秋から 6 年次には本学科の大きな特徴の一つである診療参加型の臨床実習が約 1 年 6 ヶ月行われ、実際の歯科治療を通じて歯科医師としての自覚を高めていきます。本学では海外の多くの大学との学術交流を通じて国際交流が活発に進められており、本学科も学生を積極的に海外研修に派遣し、国際性を養う制度が充実しています。

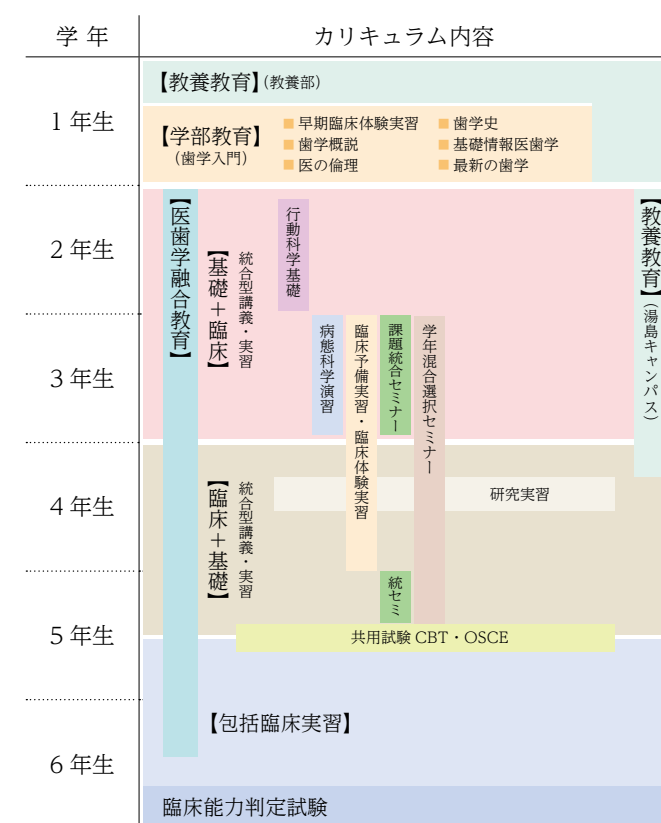
教育内容

高齢社会が急速に進む中、歯科医療人には口腔環境を健全に保つという重要な役割が求められてきています。本学歯学科は従来から将来指導的医療人となる人材の育成を目標としてさまざまな教育に対する工夫を行ってきました。2011 年度から、社会的要請が非常に高いさまざまな課題に対応できる基礎的・応用的学力を習得し、豊かな人間性と国際的な観点を含めた幅広い視野の獲得、問題発見・解決能力の啓発などをさらに向上できるよう構築した新しいカリキュラムが開始されました。新カリキュラムでは、医療系大学としての特色を生かした医学と歯学の融合教育科目が 2 年次から 6 年次まで実施されています。

1 年次は教養部で全学共通科目を履修するとともに、後期に週 1 回湯島地区で学部教育「歯学入門」が実施されます。歯科医学と歯科医療の現状を認識し、医療人としての基本的態度を修得する「早期臨床体験実習」「医の倫理」「歯学史」「最新の歯学」「歯学概説」「基礎情報医歯学」などを学びます。

2 年次以降は湯島地区で教養教育、医歯学融合教育、歯科基礎・歯科臨床専門教育が行われます。人間的な視座を持ち込むことを目標とした「行動科学基礎」や生物学・化学を総合的に扱う「生命科学」、歯科医療人にとって大切な美的感性を養う「医療と造形」、国際人としての素養を高めるための「グローバル・コミュニケーション」、医療人の知識として欠かせない「臨床統計」「生命倫理」などを履修しながら、同時に歯学の専門科目の講義・実習が行われます。これらの専門科目は、モジュールという大きな枠組みの構成単位で履修するシステムです。自主的学習態度、論理的思考

カリキュラム構成図



能力を養い、科学的に問題解決の方法を習得する「サイエンス(問題解決型学習)PBL」と「病態科学演習」の少人数のグループで行うテュートリアル教育も行われます。3 年次から 5 年次には学年を超えた選択科目(学年混合選択セミナー)があり、4 年次には「研究実習」期間を設け、歯学科以外の研究機関を含めた基礎あるいは臨床研究分野において長期(2～4 ヶ月間)の自由研究活動を行います。この期間を外国で研修することも可能です。その後研究を継続したい学生には、4 年次修了後に本学大学院に進学して歯学博士号を取得後、復学して歯科医師となる DDS-PhD コースも選択できます。

5 年次後期から 1 年 6 ヶ月は臨床指導教員のもと、附属病院で患者さんに接しながら医療人としての倫理観の醸成、包括的歯科医療の理論と実際を実践体得できる臨床患者実習を実施します。附属病院には高齢者歯科学、障害者歯科学、インプラント・口腔再生学、疼痛制御学、歯科心身医学、顎顔面補綴学、健康推進歯学、顎関節咬合学などを母体とした診療科・部も設置されており、先進的で高度な歯科臨床の現場が体験できます。また、医学科や口腔保健学科とのチーム医療についても学習できます。

歯学科は下級生が臨床実習中の上級生に教わる臨床体験プログラムを開発して実施しています。3 年生や 4 年生が 6 年生の臨床実習の見学・診療助助・症例報告などを行い、この実習を通して早期から患者さんと良好なコミュニケーションがとれる、信頼関係が築ける態度を養成しています。

授業科目

■全学共通科目(教養部科目)

■モジュール科目

- | | |
|---------------|------------------|
| 歯学入門 | 臨床体験実習 |
| 人体の構造と機能 | コンピュータシミュレーション実習 |
| 医療と造形 | 歯周病 |
| 患者と医療者 | 咬合育成・発達 |
| 行動科学基礎 | 顎口腔医療 |
| 社会と環境 | 全身と歯科治療 |
| 生命の分子の基盤 | 発展歯科臨床 |
| 臨床歯学イントロダクション | 心の病と歯科臨床 |
| 感染と生体防御 | 患者さんからみた歯科臨床 |
| 臨床予備実習 | 臨床情報処理 |
| 病理 | 包括臨床実習 |
| 予防と健康管理 | デンタルエクスターンシップ |
| 生体と薬物 | |
| 歯科放射線基礎 | |
| 病態科学演習 | |
| 内科小児科遺伝疾患 | |
| 外科系疾患 | |
| 課題統合セミナー | |
| 学年混合選択セミナー | |
| 歯科生体材料 | |
| 研究実習 | |
| 歯と根尖歯周組織の疾患 | |
| 咬合回復 | |
- #### ■医歯学融合教育科目
- 医歯学基盤教育
 - グローバル・コミュニケーション
 - 生命倫理
 - 臨床統計
 - 頭頸部基礎
 - 頭頸部臨床
 - 老年医学
 - 包括医療統合学習

歯科医学・歯科医療の向上に、 国際的視野から貢献できる人に。

全ての歯科医学領域にわたる教育を行う本学は、研究面、そして歯科臨床においても世界のスタンダードとして認知されているものが数多くあります。国内はもちろん、世界においてもリーダーシップを発揮し、社会への貢献ができる人材育成を目指しています。

■多くの外国人留学生が学ぶキャンパス■

東京医科歯科大学は「国際性豊かな医療人と世界的競争に打ち勝つことのできる研究者の養成」を大学の基本的目標の一つにしています。大学の国際化を測る一つの指標として、留学生の受入状況があげられますが、歯学部

歯学科には各学年に数名の外国人留学生が在籍し、大学院博士課程には歯学系だけでも、100名近い外国人留学生が学んでいます。写真は留学生による月見の会の風景です。



■先生は、外国人留学生・非常勤講師■

歯学科の3～5年次で行われる学年混合選択セミナーでは、本学大学院博士課程在籍の外国人留学生（歯科医師）が、母国の歯科事情について語ってくれるコースが設定されてい

ます。また、外国人の非常勤講師による講義もあります。写真はアナスタシア先生のベラルーシの歯科事情講座です。



■短期研修にやってくる海外歯科学生との交流■

歯科学生を海外の歯科大学に派遣し、研修する機会を与えることは、世界的な潮流になっています。本学歯学部・歯学系大学院と学術交流協定を締結している歯科大学から、毎年歯科学生が本学を訪問しています。訪

問学生は研究プロジェクトに参加したり、歯学科の講義・実習を見学するほか、本学学生との交流にも大きな期待と関心を持っています。



■海外との研究、教育、診療における人的交流■

1983年10月に大韓民国・ソウル大学校歯科大学と学術交流協定を締結して以来、歯学部・歯学系大学院は、海外の40以上の歯科大学・歯学部と学術交流協定を締結しています。学術交流協定締結校からは積極的に留学生を受け入れる一方、複数の専門分野にまた

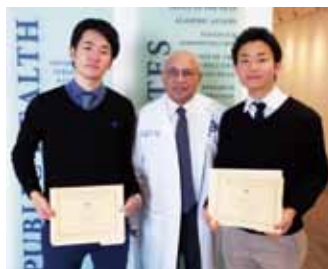
がる共同研究プロジェクトによる研究者交流も盛んに行われています。外国人研究者の来訪が多く、英語による講義やセミナーも頻繁に開催されており、学生も自由に参加できます。写真は米国タフツ大学との学術交流協定締結時の様子です。



■学生時代に、世界へ発信■

東京医科歯科大学は、海外からの学生を受け入れるだけでなく、学生を積極的に海外に派遣しています。2014年度は延べ34名の歯学科の学生が、イギリス、韓国、オーストラリア、アメリカ、タイ、インドネシア、ベ

トナム、台湾に派遣され、研修、研究、さらには歯科技術コンペに参加してきました。写真は学部学生海外研修奨励賞を利用してアメリカで約1ヶ月の研修を行ってきた呉君と松本君の研修の様子です。



学外研究機関での研修や 学生発表会などへ 積極的に参加できるコースがあります。



ベトナム
世界展開力
名嘉真 沢子
歯学部 歯学科 3年

歯学科では、長期休みを利用した短期海外研修があります。私は2年生の春休みに、ベトナムのホーチミン医科薬科大学へ10日間の研修に行きました。私は将来、国際的に社会貢献できるようになりたいのですが、アジアの歯科事情を学ぶことと海外の歯学部学生との交流を目的として本プログラムへ参加しました。

研修では、現地の大学病院を見学し、ベトナムの歯科事情に関する講義を受けて歯科的なことを学んだことに加え、現地の学生の勉強熱心な姿勢にとっても感化されました。彼らと将来にわたって続く素晴らしい友好関係を築けたことが一番の収穫だったと思います。

グローバル化と言われて久しい世の中ですので、たとえ日本で歯科医師として働くとしても、海外に目を向けることは大切だと思います。このプログラムは学生のうちからバランスのとれた国際感覚を養い、グローバル社会においてふさわしい歯科医師となる素養を身につける良いきっかけになると思います。



イギリス
アカデミックデンティスト
花岡 美穂
歯学部 歯学科 5年

歯学科では4年次に希望する国内外の研究室で研究実習を行います。私は、イギリスにあるKing's College LondonのDepartment of Craniofacial Development & Stem Cell Biologyで研究を行いました。研究に携わることは初めてでしたが、Andrea教授をはじめ、ラボのメンバーに助けていただき、研究の楽しさ、難しさを実感しながら、最後までやり遂げることができました。またラボには、さまざまな国から人が集まっているため、多種多様な文化についても知ることができる貴重な機会でした。日本で育った私は、2ヶ月半という期間を海外で生活することも初めてで、不安なこともありましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。

本学ではこのように、留学の機会や国際交流プログラムがたくさんあるので、さまざまなことに挑戦することができます。また、学校が留学をさまざまな面からサポートしてくれるため、とても心強いです。



タイ
世界展開力 research day
稲垣 有美
歯学部 歯学科 6年

歯学科には、4年次に自分が興味をもった分野の研究室に配属し、研究を行う期間があります。私は骨代謝の分子制御に興味があったため、分子薬理学分野にて先生方のご指導のもと、抜歯窩の治癒過程におけるPTH作用とこれに対するオステオポンチン制御の解析についての研究を行いました。この機会自体とても有意義なものでしたが、さらにこの研究内容を発表するため、タイのChulalongkorn Universityにて行われたResearch Dayに参加し、幸運にも基礎系2位にて賞をいただくことができました。

初めての英語での口頭発表だったので、苦勞することがたくさんありましたが、現地の先生と生徒さんと話す機会も多く、歯科におけるグローバルな視野を得ることができたと感じています。そして、今の医学の臨床はこのような基礎の研究がバックグラウンドにあることや、研究の重要性を改めて実感させていただくことができました。学部生の間に、このような大変貴重な体験を与えてくださった大学に心から感謝したいと思っています。



台湾
台湾全国歯科学学生技能コンテスト
木村 綾
歯学部 歯学科 6年

歯学科では5年次に、中華歯科医学会 (Association for dental sciences of the republic of china) 主催の台湾全国歯科学学生技能コンテスト (Dental Student Simulator Contest) に、毎年3人が選抜され参加することができます。私が参加した年は、国立台湾大学歯学部 (台北市) での開催でした。私は、世界の技術力に自信を持つ歯学科生達が集まるこのコンテストで自分の技術を試してみたいと思い、参加させていただきました。

コンテストに向けて、各分野の先生が丁寧に指導してくださり、また、より良い評価をもらうために、さまざまな工夫を一緒になって考えていただきました。各分野のプロフェッショナルである先生方から指導を受けることができ、また緊張感のある舞台上で世界の歯学科生達と鏑を削ることができたこの経験は、将来の歯科医師としての人生に必ず役に立つと考えております。

本学はこのように海外での研修プログラムが数多くあり、貴重な経験をするチャンスがあります。ぜひ皆さんも挑戦してみてください。



歯学科は入学時から良き歯科医師になるためのさまざまなプログラムを行っています。

1 新入生 オリエンテーション



入学して1週間以内に、歯学部・医学部の新入生全員と全学部から参加した教員との1泊2日の校外オリエンテーションを行います。学科を越えて入学した皆さんが1日でも早く知人になれるように学科混合の少人数グループに分け、協力し合っている作業・発表を行います。

3 2年次 医療と造形



歯科医には手を使った造形能力が特に要求されます。人モデルを用いた頭部の塑像制作実習、美術解剖講義及び歯と顔貌講義などを通して身体のかたちと機能を理解します。

5 3年次 病態科学演習



問題発見・解決型思考力の向上を目指して3年次に行われます。自学自習を目的に、社会と歯学をいかに関連付けて考えるかなどのプロセスを大事にする少人数グループによるPBLチュートリアルです。

7 4年次 臨床体験実験



5年次後期から行われる包括臨床実習の前に、4年次に医療現場を体験することにより、将来の歯科医師としての自覚を高め、歯科医師に必要な基本的態度と知識を身につける実習です。学生臨床実習室への体験実習とコンピュータシミュレーション実習があります。写真はシミュレーション実習室での支台歯形成の風景です。

9 5年次 患者対応接遇セミナー



包括臨床実習に進む直前で1日かけて行われる、専門外部講師を招いての患者接遇に関する講習会です。コミュニケーションの取り方、敬語の使い方、礼儀作法、電話のかけ方、患者—歯科医の相互ロールプレイ、など接遇についてのさまざまな内容を再確認する機会となります。

11 6年次 口腔保健学科合同授業



臨床実習中の歯学科6年生と口腔保健学科4年生が、歯周病、高齢者、小児症例に対して、将来歯科医師になる立場と歯科衛生士になる立場から、共同して同一症例の検討を行うことにより、両職種の専門性と協働の在り方について学びます。両学科混成の少人数グループでの討議とその結果を報告し合う全体発表の2つのフェーズがあります。

2 1年次 早期臨床体験実習



1年次から歯科医としての自覚を早期に持ってもらうために、3～4人のグループで歯学部附属病院の各診療科を見学し医療の実際を体感します。

4 2年次 行動科学基礎



医療者の基本であるプロフェッショナリズムの核となる、歯学生の人格の成長を主題として開講されています。医療者という役割を持つ前に、一人の人間として、「自分を知る、他者を知る、互いに交わり、互いに成長のプロセスを歩む」ことを意識し、多くの人との出会いに挑戦します。写真は横浜訓盲学院で視覚障がいの方々の日常を体験し、白杖について教えてもらっている学生です。

6 4年次 研究実習



4年次に学生毎に学内外の異なる研究分野を選択し、6月中旬から7週間かけて自分にとって興味のある研究を行い、その成果を9月末に発表します。希望すれば8～9月の夏休み期間も続けることが可能です。また海外の研修機関での研修も可能です。写真は夏休み明けに2日間にわたって行われる成果発表会の様子です。

8 5年次 学生—教員合宿研修



包括臨床実習直前に学生と歯学科教員が参加する1泊2日の校外研修です。学生と教員と一緒に与えられたテーマについて協議し、全体発表を行います。また、時間を問わず卒業後の進路相談や学業相談などを行います。

10 5—6年次 包括臨床実習



5年次後半から卒業まで1年6ヶ月の長い期間をかけて、歯学部附属病院であらかじめ了解を得た患者さんを担当し、ベテランの指導者と共に診断から治療までを行います。学生専用の診療室が設置されており、さまざまな専門診療科外来での各科実習も併せて行われています。

12 スキルラボラリー



本学にある全国共同利用施設のMDセンターと連携して、基本的歯科臨床技術修得のために学生が自由に予習・復習を行える本邦初の歯学系スキルラボラリーが開設されています。MDセンターの客員教授が定期的に講習会を開催し、テーマを決めて臨床技術について指導するコースがあります。

講義・実習風景

医歯学融合教育

ますます進む高齢化や医療の進歩および複雑化により、これからの医療には多職種間で連携・協調のとれた包括的医療が必要とされます。そこで本学では、医学部と歯学部を併せ持つ医療系総合大学としての特色を活かし、複数学科の学生がともに共通目標に向かって学ぶ融合

教育カリキュラムを開発しました。具体的には、複数学科、特に医学科と歯学科の学生が卒業時に獲得しておくべき知識・技能・態度のうち、共通するもので将来の包括的医療提供のための基盤となるものを、6年間を通してさまざまな学習段階とともに教え合いながら学びます。



基礎医歯学 生理

病態を理解するために、正常な状態とはどのような状態であるかを知る必要があります。そのために、基礎医歯学では全身、口腔領域での生命現象を構造的、機能的、化学的側面から正常な状態を学びます。生理学では講義、実習を通じて生体の機能について学びます。写真は咀嚼筋筋電図を測定する実習風景です。



人体の構造と機能

2年次前期に人体解剖学の講義および人体解剖学実習を通して人体の構造について学びます。また歯学部独自の講義・実習科目として歯の解剖学の講義、実習を2年次後期に行い、歯の構造について学びます。写真は歯の解剖学の講義風景です。



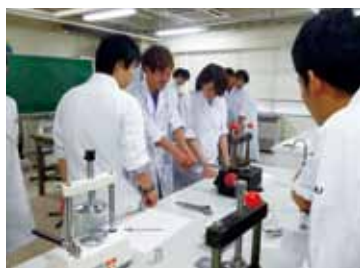
予防と健康管理

3年次前期に口腔疾患の予防と健康管理を行うために必要な基本的知識、技術、態度を身につけ、さらに我が国の歯科保険医療制度や歯科法医学に関する基本的知識を学びます。写真は集団検診の実習風景です。



生体歯科材料

3年次後期～4年次前期に歯科医療で使用される材料の物理化学的特性や生体や環境への影響及び成型法を学びます。写真は歯科材料の成型技術に関する実習風景です。



学年混合選択セミナー

3～5年次の学生と一緒に選択授業を受講。1テーマあたり週1回 × 5週で毎年2テーマ選択します。広い視野を持ち、柔軟な考え方ができる人材を育成することを狙いとし、歯科とは一見関係が薄い

と思われる分野からもテーマを選び、社会で活躍している方を講師として招聘しています。写真は「顔・顔・顔」の授業で、テーマは「化粧」です。



咬合回復 — 全部床義歯補綴実習

3年次後期から4年次前・後期に行われる。歯の欠損による顎口腔系の形態及び機能の異常を理解し、その診断・治療に必要な知識と技能を学びます。写真は全部床義歯補綴実習の風景です。



咬合育成・発達 - 矯正歯科実習

口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長発育を理解し、咬合異常の予防、診断及び治療に必要な知識と基本的技能を学びます。このモジュールは小児歯科系と歯科矯正系のユニットで構成されている。写真は歯科矯正のタイポドント実習風景です。



歯と根尖歯周組織の疾患

4年次前期・後期に歯と根尖歯周組織に生じる疾患の病因・病態を理解し、その予防・診断及び治療に関する知識と基本的機能を学びます。このモジュールは保存修復と歯内療法との2つのユニットで構成されています。写真は保存修復実習風景です。患者さんを模したマネキン内で実際のう蝕治療とほぼ同じ環境でトレーニングが行なわれています。本学は臨床系の教員数が多いので、学生一人一人に対する教育の質が高いことが特徴です。



全身と歯科治療

歯科とはいえ緊急時には全身管理が必要となります。5年次前期に麻酔・全身管理学を学び、また、全身管理や救急医療に関する質の高い実習が行なわれます。写真はマネキンを用いたAEDの実習風景です。



先輩から

日々新たな課題に直面し、自ずと学びたくなる環境

本学では5年次の秋から6年次にかけて包括臨床実習が行われます。我が国最大の一日来院患者数を誇る本学の恵まれた環境のもと、学生一人一人に患者さんが配当され、治療計画立案から実際の治療、予後管理に至るまで包括的な治療を行っています。この実習は各分野の指導医の先生方による熱心できめ細やかなサポートのもとで行われますが、患者さん一人一人と真剣に向き合い、自分の未熟さを痛感する中で、自然と今何が必要で何をすべきか考え、もっと学びたいと思うようになりました。幅広い知識と技術、コミュニケーションスキルや高い倫理観など将来歯科医師として必要な能力の基礎が身につくのはもちろん、実際の患者さんを前にして教科書だけでは分らなかった難しさ、そして楽しさ、やりがいを感じることができるでしょう。6年間を共にする同期とも助け合い、刺激し合いながら、本学でしか味わえない充実した学生生活がきっと送れると思います。

MESSAGE FROM A STUDENT



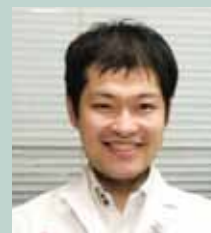
徳永 佳紀
歯学部 歯学科 6年

指導者として活躍する卒業生から

医療分野の研究開発を支援する立場から

私は本学を卒業後、本学歯学部附属病院で臨床研修医を、顎顔面矯正学分野で大学院生を経たのち、現在は国の医療分野の研究開発に関わる独立行政法人のひとつである国立研究開発法人日本医療研究開発機構に出向しています。職務としては主に医療機器関係の研究助成を行う業務に就いており、学部教育で得た知識や臨床での経験を活かしながら、産学官をつなぎ、円滑な医療機器の実用化、研究の促進を図る役割をまっとうできるよう奮闘しています。

本学の歴史はとてども古く、伝統的に充実した臨床実習を始めとしたレベルの高い歯科医学教育が行われており、6年間の学部教育で培われた知識と技能は、将来、揺るぎない自信の根拠となっていくと思います。皆様とともに高いスキルを持った医療人となり、今後の歯科医学の発展に貢献していけることを願っています。



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
産学連携部 医療機器研究課
丸岡 亮
(歯学部 歯学科 平成20年度卒業)

MESSAGE FROM A SENIOR

歯学部

口腔保健学科

口腔保健衛生学専攻

求める学生像

- (1) 口腔保健に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人。
- (2) 豊かな人間性と人々への思いやりのある人。
- (3) 協調性とコミュニケーション能力に優れる人。
- (4) 科学的探究心を持ち、自己啓発への意欲がある人。
- (5) 国際交流・国際貢献に意欲のある人。



医療と福祉の両面から口腔保健を学び 人々の健やかな人生の実現をサポートする

本専攻は、保健医療分野はもとより福祉分野とも密接な連携を図るとともに、口腔保健衛生学に関する総合的な科学研究を行い、その成果を広く社会に還元していく学際的特徴を持っています。

本専攻が目指しているのは、高度な専門知識と技術の修得だけではなく、口腔の健康づくりを通じて、人々の健康で幸せな生活をサポートすることができる人材の育成です。

豊かな人間性と科学的な思考力、高い倫理観を持って知識と技術を活かし、医療・保健・福祉などさまざまな場で保健活動が展開できる能力を持つ歯科保健医療従事者の教育と、口腔保健衛生分野の未来を担う研究者の育成を行います。

教育内容

本専攻では、4年間で歯科衛生学を中心に保健・医療・福祉の分野にわたる総合的な学習を行います。

1年次は主に教養科目（人文・社会科学、自然科学、外国語、保健体育など）を他学科の学生とともに学ぶほか、連携教育では専門基礎科目や臨床体験実習などの科目を履修します。

2年次から3年次には、歯科衛生学・口腔保健衛生学の専門基礎科目及び専門科目の講義、また口腔疾患予防や健康教育、臨床口腔保健衛生に関する理論と実際を理解するための講義と基礎実習を行います。福祉関連科目も履修するほか、対人職には欠かせないコミュニケーション能力を身につけるための演習もあります。

臨床実習は、3年次後期から本格的に開始されます。歯科衛生に関する基礎系・臨床系科目で学んだ知識と技術を活かして、

カリキュラム構成図

学 年	カリキュラム内容	
1 年生	【全学科共通科目】 (教養部)	【専門基礎分野】 (1)人体の構造と機能及び疾病 (2)栄養と代謝 【専門分野】 (1)口腔保健と専門職 (2)歯科衛生学概論Ⅰ (3)公衆衛生学 (4)臨床体験実習 (5)社会保障
2 年生	【専門基礎分野】 (1)科学英語 (5)疾病の成り立ちと回復過程の促進 (2)人体の構造と機能及び疾病 (6)社会保障 (3)歯・口腔の構造と機能 (7)保健医療サービス (4)口腔保健衛生基礎科学実習	
3 年生	【専門分野】 (1)口腔疾患予防学 (2)臨床歯科医学 (3)口腔衛生学 (4)口腔健康科学 (5)食生活教育 (6)生体材料学 (7)臨床検査 (8)歯科薬理・薬剤学 (1)臨床口腔保健衛生基礎学 (2)臨床口腔保健衛生応用学	【展開分野】 歯科衛生臨床実習 歯科衛生臨床実習 (1)歯科衛生臨床・臨床応用実習 (2)口腔疾患予防学演習 (3)口腔健康教育学演習 (4)臨床口腔保健衛生基礎学演習
4 年生	(1)健康教育の基礎 (2)健康教育の企画と実践	

実践力を高めます。また、小学校、幼稚園などで健康教育実習を行います。卒業研究では、一人一人テーマを見つけて、準備を始めます。

4年次には、3年次までに履修した内容をさらに展開して、地域、障害者施設、高齢者施設などにおける臨地実習を行い、実社会で活躍するために必要な問題解決能力を培います。また、卒業研究などを通して、科学的思考法と解決法を身につけます。社会福祉士国家試験受験資格取得を希望する場合は、福祉施設での現場実習への準備を進め、3年次春季休業期や4年次夏季休業期に集中的に現場実習を組み込んでいます。

卒業時には、歯科衛生士国家試験受験資格を取得できます。また、必要科目を選択履修した者は、社会福祉士国家試験受験資格が得られます。

授業科目

■全学科共通科目 英語 生物学入門 化学基礎 生物学基礎 統計学 情報科学 スポーツ・健康科学 フィットネスマネジメント 教養総合講座 人文社会科学 科学基礎実験 ドイツ語・フランス語・中国語 自由選択科目	臨床体験実習 歯科衛生臨床実習 育成系・維持系・回復系診療科 総合診療科・スペシャルケア外来 (高齢者・障害者・息さわやか)・ 口腔ケア外来・中央診療施設 歯科衛生臨床実習 小学校・幼稚園・保育園・中学校 保健センター・障害者センター・ 高齢者センター・総合病院・企業 内診療所・歯科関連企業
■専門基礎分野 科学英語 人体の構造と機能及び疾病 歯・口腔の構造と機能 口腔保健衛生基礎科学実習 疾病の成り立ちと回復過程の促進 公衆衛生学 社会保障 保健医療サービス	■統合分野 歯科衛生過程 卒業研究 児童・家庭福祉 障害児・者福祉 地域福祉 相談援助の基礎と専門職 相談援助実習指導 相談援助演習
■専門分野 口腔保健と専門職 歯科衛生学概論 口腔健康科学 口腔衛生学 臨床歯科医学 歯科薬理・薬剤学 生体材料学 全身と口腔の健康評価 顎口腔機能の育成と回復 臨床検査 口腔疾患予防学 健康教育の基礎 健康教育の企画と実践 食生活教育 臨床口腔保健衛生基礎学 臨床口腔保健衛生応用学	■展開分野 歯科衛生臨床・臨床応用実習 口腔保健と国際協力 口腔疾患予防学演習 臨床口腔保健衛生基礎学演習 口腔健康教育学演習 ■社会福祉科目 公的扶助 コミュニティワーク 現代社会と福祉 ソーシャルワーク 権利擁護 社会福祉行政 福祉計画 司法福祉 福祉运营管理 就労支援サービス

講義・実習風景

基礎歯学系授業

1、2年次には、基礎系歯科医学の講義と実習を通して、人体、特に歯と口腔の解剖学的構造とその生理学的機能及び代謝のしくみについて学ぶとともに、病理学的変化とその成り立ち、微生物の病原性と生体の防御反応、薬剤の作用と疾病からの回復過程について学ぶ。



PBL テュートリアル

少人数グループでの授業。シナリオから気になる点や問題点を抽出して、グループごとに学習課題を決める。自学自習した後、発表・討議を行って、内容を確認する。工学専攻や歯学科・医学科学生と合同で行うこともある。問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養う。グループにはチューターと呼ばれる教員がいるが、見守り役。



健康教育の企画と実践

人の健康づくりに欠かせない知識や技能を身につけ、対象とする方々が行動に活かせるように、健康教育を行う。園児、小・中学生や高齢者を対象とした健康教育を企画立案、教材を作成して実践する。



口腔疾患予防学実習

2年次は模型実習、マネキン実習で、口腔疾患予防に必要な基礎的なスキルを身につける。さらに、学生同士の相互実習を行い、患者対応の基礎訓練を行う。情報収集し、整理・統合した上で、介入計画を立てて実践する流れを身につける。3年次後期から4年通年の歯学部附属病院における臨床実習を通して、実践力を養成する。



臨床実習

歯学部附属病院では、歯科衛生士教員及び歯科医師の指導を受けて、患者さんへの指導や歯科予防処置などを行う。口腔内の観察、検査、医療面接などから、必要な情報を収集して患者さんにとって必要な介入ができるように計画、実践する。歯磨きに関することばかりではなく、生活習慣や食生活、禁煙に関する指導など幅広い内容を取り上げる。情報交換のため、ケースに関するプレゼンテーションを行い、互いに意見交換して、その精度を高めていく。



社会福祉士選択授業・相談援助実習

ニーズの高度化・多様化が進む中、医療現場でも高齢者・障害者・児童、教育、司法、行政などの知識や相談援助技術を持つ社会福祉士が求められている。そこで3年次に行われる社会福祉士選択授業及び相談援助実習では、人びとが生活する上で抱えるさまざまな課題や多様なニーズに適切に対応でき、生活を支えるための高い実践力を養う。



医療現場で活躍する卒業生から

歯科衛生士としてのやりがいを見つけられる恵まれた職場です。

MESSAGE FROM A SENIOR



東京医科歯科大学 歯学部附属病院
歯科衛生保健部
木村 文香
(歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻 平成 23 年度卒業)

現在私は、本学歯学部附属病院口腔ケア外来の歯科衛生士として働いています。外来で患者さんへの指導や専門的なスキルを活用する口腔ケアを始め、医学部附属病院に入院中で、手術を予定されている方の口腔ケアにも携わっています。口腔ケアの後、患者さんの安心した表情や、感謝の言葉をいただいた時には歯科衛生士としてのやりがいを感じ、次への活力となっています。今の自分があるのは、学生時代に最先端の知識・技術をご指導してくださった先生方や、ハードスケジュールをこなし、切磋琢磨して成長した仲間のおかげです。人々は健康に対する重要性を認識するようになってきています。本専攻では医療の進歩に伴い変化する社会のニーズに合わせ、授業内容も毎年更新されていますし、先端医療を学ぶ体制は大学と病院の連携によって実現しており、本学の特色の一つであると思います。本大学で4年間を通してさまざまなことに挑戦し、将来、歯科衛生士として強い志を持った後輩が増えることを楽しみにしています。

地域保健現場で活躍する卒業生から

恵まれた環境、与えられた機会。多角的視点でオーラルヘルスプロモーションを理解できる。

MESSAGE FROM A SENIOR



品川区保健所 大井保健センター
友枝 佐与
(歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻 平成 24 年度卒業)

医療、福祉は互いに強い結びつきを持って私達の生活を支えています。複雑多様化した社会において、対象者の生活という漠然としたものを考えるときにはさまざまな切り口から見る必要があります。私は現在、歯科衛生士の資格を活かし、行政職員として地域の皆様が健康に過ごせるよう支援をしています。学生時代には多種多様な臨床・臨地実習がありました。附属病院では、難症例や複雑なケース、対応が困難なケースを見て患者さんとの関わりの難しさを理解しました。医歯学融合教育によって自らの専門性を理解し、他職種とどう関わりを持つか考える機会も得ました。また、幼稚園から小学校、高齢者福祉施設での健康教育の計画立案と実践は現在の仕事に結びついています。現代社会において、疑問を持ち常に考え新しく創造する事ができることは自分の武器になります。時代に応えるために、変化を続ける本学から、社会を、そして人々を支える歯科衛生士が輩出されることを期待しています。

歯学部

口腔保健学科

口腔保健工学専攻

求める学生像

- (1) 口腔保健に強い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人。
- (2) 豊かな人間性と人々への思いやりのある人。
- (3) 口腔機能の回復に深い関心を持ち、技工技術習得に意欲がある人。
- (4) 科学的探究心を持ち、自己啓発への意欲がある人。
- (5) 国際交流・国際貢献に意欲のある人。



造形と製作加工の技術を匠の技として発展させ、 人々の健康に寄与する技術者、研究者、教育者を育てる

2011年4月に新設された口腔保健工学専攻は、
口腔の健康の維持・増進・回復を図り、
人々が快適な社会生活を営めるように、
医療専門分野はもとより工学分野とも相互に密接な連携を図りつつ、
総合的かつ科学的研究を行い、
その成果を広く社会に還元する極めて学際的なコースです。
目指すのは、口腔から全身の健康に関する十分な知識と高度な専門的技術を有する
歯科医学・歯科医療の一翼を担う歯科医療技術者です。
卒業後には、口腔保健工学を発展させていくことのできる、
国内はもとより国際社会においても
技術者、研究者、教育者として活躍することが期待されています。

■ 教育内容

本専攻では温かく豊かな人間性を有し、口腔保健の立場から、
人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識及び技術を
持って広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を養成
します。歯科技工士教育要項の大綱化にそった新カリキュラムが
2015年度より始まりました。

1年次は教養部で他学科の学生とともに全学共通科目（人文・社会
科学、自然科学、外国語など）を履修するとともに、週1回湯
島地区で専門基礎分野の科目を履修します。「口腔保健工学概論」
では口腔保健衛生学専攻の学生と一緒に問題解決型学習（PBL）
を行い口腔保健専門職の基礎を学びます。また、「造形美術概論
実習および加工技術基礎」では口腔保健工学の基本的技術力を培
います。

2年次以降は湯島地区で専門基礎分野、専門分野などの科目を
学びます。2年次の「人体の構造と機能Ⅱ」では口腔と全身の構造
や生命現象のしくみについて学びます。「口腔保健理工学」では歯
科技工で用いる材料器械の原理や扱い方について学び、さまざま
な材料の物性の測定等を行います。「ヘルスプロモーション」では
PBLと講義を併用しながら口腔保健の一翼を担う専門家としての
役割と口腔と全身の健康について学びます。「全部床義歯工学」「歯

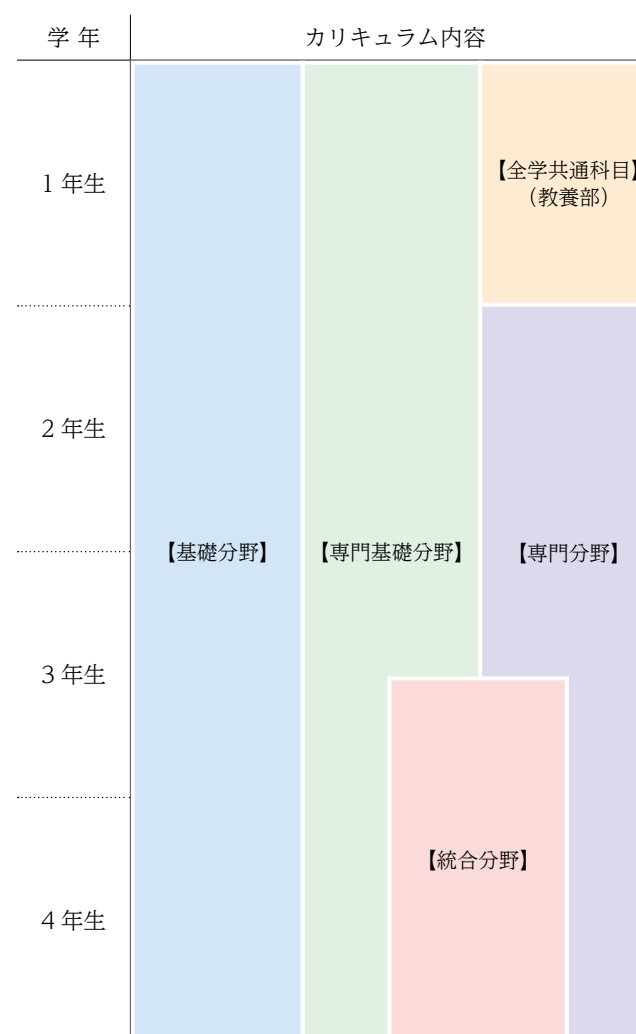
冠修復工学」などでは、歯科補綴装置の製作方法を学び、実際に
製作します。

2年次の後期には、海外特別研修にて台湾の大学などを訪問し、
国際交流を行います（38p 参照）。日本の歯科医療を理解すると
ともに国際社会における歯科医療を知り、国際社会において貢献で
きる力を養います。

3年次の「CAD/CAM システム工学」では最新の CAD/CAM
システムを用いて各種材料での製作物の製作理論を学び、実際に
製作します。「顎補綴工学」では顎口腔、顔面の欠損に用いる治療
用装置の構造と製作法を学びます。

4年次には今まで学んだことを基に、実際の患者さんの補綴装置
を製作する「再建工学包括臨床実習」を行います。歯学部附属病院
には多くの専門外来があり、通常の補綴装置からインプラント上部
構造や顎補綴装置まで学ぶ機会があり、充実した体験ができます。
卒業に向けた集大成として、未解決の問題について自ら研究テーマ
を立案し、学科を越えて行う「卒業研究」を実施するとともに、今
まで学んだ技術を基に高度で先進的な技法を用いる「卒業作品」を
製作します。そのほか、「スポーツ歯科工学」「オーラルアプライア
ンス工学」などの学際領域にかかわる口腔内装置についても学びます。

■ カリキュラム構成図



■ 授業科目

■ 全学共通科目	人体の構造と機能 画像解析学 歯の形態実習 咬合学 臨床咬合学 加工技術基礎 口腔機材開発工学 口腔保健理工学 精密铸造学演習 プロセスデバイス工学
■ 基礎分野	■ 専門分野
口腔保健工学概論 科学英語 ヘルスプロモーション メディア情報学基礎 コミュニケーション学 造形美術概論実習 グローバル口腔保健工学実習	顎補綴工学 スポーツ歯科工学 オーラルアプライアンス工学 全部床義歯工学 部分床義歯工学 歯冠修復工学 審美修復工学 CAD/CAM システム工学実習 インプラント工学実習 小児歯科工学 発育口腔工学 矯正歯科工学 再建工学包括臨床実習
■ 専門基礎分野	■ 統合分野
歯科技工士と法律 感染予防 口腔保健工学管理学 早期臨床体験実習 口腔外科工学 う蝕と歯周病 高齢者歯科工学 口腔保健工学特論	医療倫理 卒業研究 卒業製作 口腔保健工学エクスターンシップ

講義・実習風景

造形美術概論実習・歯の形態実習

造形美術概論実習・歯の形態実習ではスケッチや歯の模写をすることで、形態を客観的に見る力を身につけ、適切な歯の形態を再現する能力を身につける。



口腔保健理工学実習

圧延加工、旋盤加工などを通じて加工技術の基礎を学び、実習を通して技工用材料の基礎知識の理解を深める。



全部床義歯工学実習

全部床義歯工学実習では全部床義歯の製作などを通して歯科技工士として必要な補綴装置の製作技術と知識を習得する。



歯冠修復工学基礎実習

歯冠修復工学基礎実習では、クラウンやブリッジと呼ばれる金属製やプラスチック製の歯冠修復物の製法と必要な知識を学ぶ。また、CAD/CAMを用いた補綴物の製作も体験する。



顎補綴工学

外傷や先天性疾患、腫瘍などにより生じた欠損に対する顎顔面補綴装置の製法と必要な知識を学び、実習では、上顎欠損に対する顎義歯の製作と顔面欠損に対するエピーテーゼを製作する。



国際交流

2年次の後期には海外特別研修にて台湾の大学を訪問し、3月には台湾からの学生を受け入れ、国際交流を行っている。日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際社会において貢献できるように視野を広げる。



先輩から

企業人として工学専攻で学んだ知識・技術を活かしたい

MESSAGE FROM A SENIOR



株式会社モリタ勤務
立川 皓太
(歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻 平成26年度卒業)

私は今年工学専攻を卒業し、歯科の総合商社で社会人生活をスタートしました。多様な歯科関連製品を扱う企業で、培った知識、技術を活用したいと考え、就職を決めました。マーケティング部のCAD/CAMを扱うグループの配属になりましたが、CAD/CAMは歯科界で最も注目され、今後急速な展開が期待されている技術です。工学専攻にはCAD/CAMについて学ぶ環境が国内で最も充実しているという特長があります。ここで得た最新の知識と技術を基盤にさらに研鑽を積み、企業人として歯科技工業界をリードできる人材になりたいと考えています。

工学専攻では、歯科技工だけでなく幅広い歯科医学の知識も学べ、多くの先進機器と熱心な先生方が学生生活をサポートしてくれます。何より歯科技工界を変えていける気概とリーダーシップが養える最高の空間だったと確信しています。後輩の皆さんには、この優れた環境をしっかりと学びに活かしてほしいと思います。

先輩から

歯科医療技術者として質の高い医療を提供するために

MESSAGE FROM A SENIOR



昭和大学歯科病院歯科技工室
八巻 知里
(歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻 平成26年度卒業)

工学専攻では、さまざまな分野で活躍できる人材を育成するため、歯科技工の専門知識や技術のほか、コミュニケーション能力や国際感覚を養うことにも重点が置かれています。2年全員で参加する海外研修は、先方の学生との交流を楽しみ、英語学習への意欲を高める機会になっています。4年次の医歯学融合教育では他学科学学生との意見交換を通して多職種間の相互理解を深め、医療における自分の役割を改めて考えることができ、また臨床実習では患者さんの口腔内補綴装置の製作を通して、技術のみならず歯科医師との意思疎通の重要性を学びました。

私は、現在大学病院の歯科技工室に勤務していますが、医療に携わる全員の連携によって患者さんに満足していただける質の高い歯科医療が提供されること、そして、日々自ら進歩しなければならないということを実感しています。大学で学んだことを活かし、歯科医療技術者としてこれからますます高みを目指していきたいと考えています。

教養部

〈理念と教育目標〉

世界に通用する医療人になるためには、専門教育で獲得する知や技に加えて、さまざまな文化や多様な世界を理解できる教養と、他者を理解するための人間としての力が求められています。教養部では、そのためには教養教育と専門教育を学ぶための基礎教育を並行して行うことが必要だと考え、以下の4つの力を学生に獲得させる教育を目指しています。

- (1) 市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と感性
- (2) 科学的に考え、理解し、自ら問題を見つけ継続して学ぶ力
- (3) 国際的な医療人として活躍するために必要なコミュニケーションの能力
- (4) 専門教育に必要な基礎学力や思考力、技術



医療人としての教養、 人間としての力を身につける

本学での学生生活の最初の入口、それが教養部です。

現在、教養部を設置している国立大学法人は本学のみです。

教養部は、「大学は、市民社会を構成する一員としての教養を身につける場である」という大学教育の原点に立ち返り、医療人に求められる教養と

人間としての力を身につけるための教育を行っています。

学部・学科の別なく全学生がともに学ぶことにより、多様な考え方に触れ、

専門の領域を越えて将来に繋がるかけがえのない友人を得ることができるのも、教養部ならではの特徴です。

緑豊かな国府台キャンパスで全学科の学生が1年間を過ごします。

また、専門科目の履修と並行して、人間への理解をいっそう深められるよう

医学部医学科、歯学部歯学科を対象に、2年次以降の湯島キャンパスでも、

教養部が担当する主題別選択科目や、人文・社会科学の少人数セミナーが開講されます。

■教育内容■

教養部では、左に掲げた教育理念・教育目標に沿って、必修科目と選択科目を配置しています。

人文社会系科目：文学、哲学、歴史学、法学、社会学等が開講されています。先人の優れた知見に触れるとともに、学問のさまざまな方法論に接する機会です。ここで身につけた知識や考え方を、2年次以降の「主題別選択科目」や「主題別人文社会科学セミナー」でさらに深化させます。

自然科学系科目：数学、物理学、化学、生物学は、自然の理解に必要であると同時に、専門教育の基礎学力としても重要です。講義と実習で、知識に加えてそのための思考力や技術も身につけます。物理学、化学、生物学を高等学校で履修しなかった学生のためには、入門コースを設けています。

外国語系科目：言語はコミュニケーションを図るために必要なばかりではなく、その背景となる社会や文化を理解するためにも重要です。英語では能力別クラス編成によって、各自の今もてる力をいっそう伸ばします。第二外国語としては、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語が開講されています。



教養総合講座



英語



化学実験

保健体育学系科目：講義と実技により、身体知を身につけます。他者の身体に関与する医療者は、まず自らの身体を熟知し、それを管理できる能力が必要です。フィットネスマネジメントではこのような能力を身につけるための時間も設けています。

教養総合講座：入学直後には「教養総合講座」が全学生を対象に開講されます。全学科横断で構成される少人数グループそれぞれを、交替で2名の教員が担当することで、学生と教員との親密なふれあいの場が提供され、その中で、大学での学習に必要な資料の収集方法や、議論の仕方、成果のまとめ方や発表の仕方を学んでいきます。基本的な文章表現や情報リテラシーの学習もこの「教養総合講座」の中に含まれます。

2年次以降（湯島地区開講科目）：2年次以降の湯島キャンパスでも、教養部が担当する科目が開講され、より深い人間への理解と科学的視野を持った医療人の育成を目指します。医学部医学科、歯学部歯学科対象の「主題別選択Ⅰ・Ⅱ」や「主題別人文社会科学セミナー」、歯学部歯学科対象の「生命科学」や「サイエンスPBL」などです。

■授業科目■

哲学	フランス語
倫理学	中国語
心理学	スペイン語
宗教学	物理学実験
芸術	化学実験
歴史学	生物学実験
民俗学	科学基礎実験
科学史	科学基礎演習
文学	情報科学
法学	情報処理
政治学	スポーツ・健康科学
経済学	フィットネスマネジメント
社会学	自由選択科目
社会心理学	教養総合講座
社会思想史	医療人間学概論
文化人類学	医療人間学セミナー
社会科学特論	生命科学基礎
日本事情（留学生のみ）	主題別選択Ⅰ
物理学入門	教養英語
生物学入門	情報科学演習
化学入門	サイエンスPBL
数学	生命科学
数学基礎	人文社会科学総合講義
統計学	主題別選択Ⅱ
物理学	主題別人文社会科学セミナー
化学	
化学基礎	
生物学	
生物学基礎	
英語	
日本語（留学生のみ）	
ドイツ語	

大学院

医歯学総合研究科

- 修士課程 医歯理工学専攻
- 修士課程 医歯理工学専攻 医療管理政策学（MMA）コース
- 博士課程 医歯学系専攻
- 博士課程 生命理工学系専攻



医学及び歯学に求められている 多くの課題に的確に対応

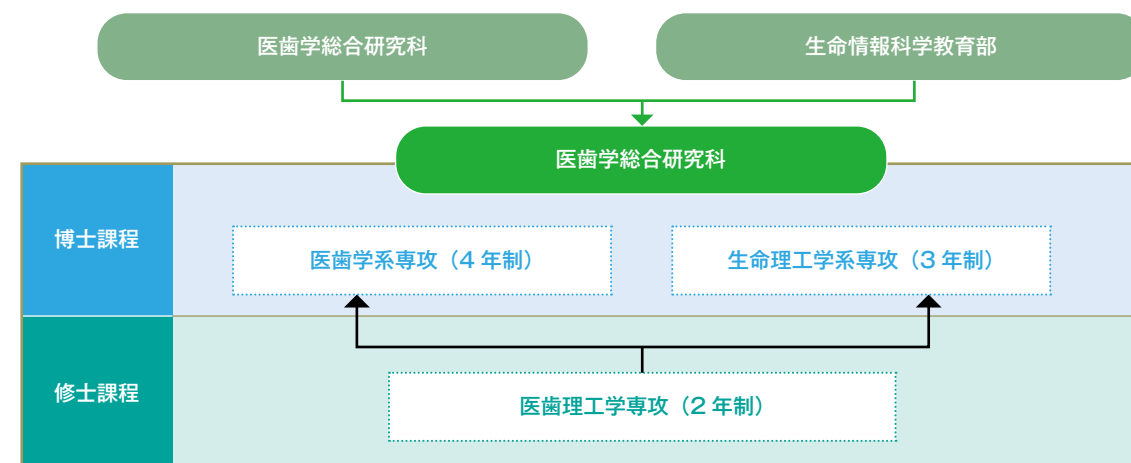
これからの医学及び歯学に求められている多くの課題に的確に対応するため、
1999 年、大学院医学系研究科と歯学研究科とを有機的に
改組・連携した医歯学総合研究科を創設しました。

医学と歯学の教育研究が相互補完的となり、医学知識を持って活動する歯学研究者・歯科医師、
歯学知識を持って活動する医学研究者・医師の育成が行われます。

さらに、2012 年度より医歯学総合研究科の修士課程と博士課程が改組され、
修士課程には医歯理工学専攻及び医歯理工学専攻医療管理政策学コースを設置し、
博士課程には医歯学系専攻と生命理工学系専攻を設置しました。

医学、医歯学並びに歯学のそれぞれの領域の高度な専門知識・技能を身につけ、
同時に、それら知識・技能を横断的に駆使して全人的医療が実践できるアカデミックドクターの養成によって、
よりいっそう高度な医療を国民に提供する医療体制を整備することを目指します。

■ 医歯学と理工学の融合した教育研究推進を図る両大学院の融合 ■



■ 多様な大学院コース ■

大学院医歯学総合研究科では、多様な大学院コースを設置し、教育の機会を増やしています。

■ 臨床系大学院の開設

医歯学領域における先端的・学際的研究者の養成
医学と歯学の両方の知識を持った医歯学際型研究者の養成及び基礎と臨床を融合する臨床指向型研究者の養成。

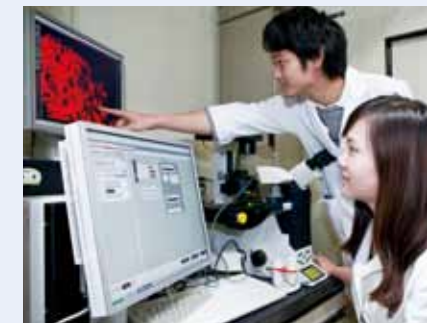
高度の医療技術を有するアカデミックドクターの養成
疾病中心から患者中心の全人的包括的医療の実践。



■ 医歯学国際大学院の拡充整備

地球規模での貢献
・ 医歯学領域における国際的研究者の養成

英語による教育により、相互的人的（特に教員）交流と物的及び診療教育システムの提供協力による地球規模的な国際貢献。



■ 社会人大学院（昼夜開講制）の開設

開業医・勤務医への教育研究の場の提供

- ・ 研究心旺盛な医療人の養成
- ・ リカレント教育（再教育）
- ・ 異分野の社会人の参入
- ・ コンティニューイング教育（持続教育）

自らの知識と技術の再確認ばかりでなく、最先端医療の知識と医療を学習修得することにより最先端医療の社会への普及。プライマリー医学、ターミナル医学等の多様な社会的要請に応える医療関係社会人の再教育。



修士課程 医歯理工学専攻

標準修業年限は2年とし、修士（医科学）、修士（歯科学）、修士（口腔保健学）、修士（理学）、修士（工学）のいずれかが取得可能です。取得できる学位は取得科目により決まりますが、どの分野に所属しても希望の科目の選択が可能なので、どの分野に入学されても上記の学位のいずれかが取得可能です。

人材育成目標

医学、歯学、生命理工学を中心とする多分野融合を実現した体系的な教育課程を基に、生命科学領域の相互連携を図り、人類の健康と福祉に関する幅広い知識及び高い倫理観を有する医学、歯学、生命理工学分野の教育者、研究者、技術者等を育成する。

アドミッション・ポリシー

本専攻が掲げる人材育成目標に鑑みて、本専攻では協調性に富み、自分の考えを的確に表現し伝えることができ、入学後の修学に必要な英語力を有している者で、下記の項目のいずれかに該当する者を求める。

1. 医科学
2. 歯科学
3. 生命理学
4. 生体工学
5. 口腔保健学

1～5を学習するのに必要な基礎知識を有し、専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を有している。

6. 医療管理政策学

6を学習するのに必要な基礎知識又は実務経験を有し、医療管理政策の展望について自らの考えを論理的に表現することができ、さらなる専門知識を体系的・集中的に学びとる意欲を有している。

教育研究分野

細胞生物学
病態代謝解析学
国際健康推進医学
国際環境寄生虫病学
法医学
政策科学
神経機能形態学
システム神経生理学
細胞薬理学
免疫アレルギー学
ウイルス制御学
免疫治療学
細胞生理学
臨床解剖学
システム発生・再生医学
分子腫瘍医学
包括病理学
人体病理学
診断病理学
環境生物学
シグナル遺伝子制御学
疾患モデル動物解析学
形成・再建外科学
頭頸部外科学
腫瘍放射線治療学
運動器外科学
研究開発学
血流制御内科学
臨床検査医学
生体集中管理学
心療・緩和医療学
臨床医学教育開発学
救急災害医学
臨床腫瘍学
眼科学
耳鼻咽喉科学
脳神経病態学
精神行動医科学
脳神経機能外科学
血管内治療学
発生発達病態学
膠原病・リウマチ内科学
皮膚科学
統合呼吸器病学
消化器病態学

総合外科学
循環制御内科学
心肺統御麻酔学
心臓血管外科学
腎臓内科学
生殖機能協同学
腎泌尿器外科学
消化管外科学
呼吸器外科学
血液内科学
分子内分泌代謝学
肝胆脾外科学
整形外科学
薬物動態学
リハビリテーション医学
医療政策情報学
画像診断・核医学
先進倫理医科学
口腔病理学
細菌感染制御学
分子免疫学
先端材料評価学
顎顔面解剖学
認知神経生物学
分子発生学
分子細胞機能学
硬組織構造生物学
硬組織薬理学
結合組織再生学
硬組織病態生化学
分子情報伝達学
法歯学
医療経済学
医学教育開発学
口腔病態診断科学
口腔放射線腫瘍学
顎口腔外科学
口腔放射線医学
麻酔・生体管理学
疼痛制御学
発生発達病態学
小児歯科学
咬合機能矯正学
う蝕制御学
摂食機能保存学
歯髄生物学

部分床義歯補綴学
インプラント・口腔再生医学
顎顔面外科学
顎顔面矯正学
顎顔面補綴学
歯周病学
健康推進歯学
スポーツ歯科学
高齢者歯科学
障害者歯科学
総合診療歯科学
歯科心身医学
歯科医療行動科学
顎関節口腔機能学
歯学教育システム評価学
教育メディア開発学
生涯口腔保健衛生学
健康支援口腔保健衛生学
口腔疾患予防学
地域・福祉口腔保健衛生学
口腔健康教育学
口腔保健衛生基礎学
金属材料学
無機材料学
有機材料学
センサ医工学
バイオ情報
バイオエレクトロニクス
バイオデザイン
バイオメカニクス
物質医工学
薬化学
生命有機化学
メディシナルケミストリー
生体材料機能医学
幹細胞医学
神経病理学
生体防衛学
病態細胞生物学
分子代謝医学
幹細胞制御学
分子薬理学
遺伝制御学
分子細胞生物学
発生再生生物学

免疫学
エピジェネティクス
システム情報生物学
分子構造情報学
分子神経科学
分子細胞循環器学
分子細胞遺伝学
遺伝子応用医学
分子疫学
遺伝生化学
疾患ゲノミクス
代謝応答化学
理研生体分子制御学
NCNP脳機能病態学
都医学研疾患分子生物学
NCC腫瘍医科学
疾患多様性遺伝学
NCCHD成育医学
応用再生医学
JFCR腫瘍制御学
口腔基礎工学
口腔機材開発工学
口腔機能再建工学
保険医療管理学
先駆的医療人材育成

科目内容

医歯学総合概論
初期研究研修
医歯理工学先端研究特論
課題研究
医科学演習
医科学実習
歯科学演習
歯科学実習
口腔保健学演習
口腔保健学実習
理工学演習
理工学実習
人体形態学
口腔形態学
人体機能学
病理病態学
環境社会医歯学
口腔保健臨床実習
病院実習
生化学
薬理学
免疫学
発生・再生科学
細胞生物学特論
神経疾患特論
遺伝医学特論
口腔保健福祉学
バイオインフォマティクス
疾患オミックス情報学特論
機能分子化学
ケミカルバイオロジー特論
ケミカルバイオロジー技術特論
分子構造学特論
生体材料学
バイオメディカル理工学
人間環境医療工学
医歯薬産業技術特論
英語交渉・ディベート特論
研究倫理・医療倫理学
トランスレーショナルリサーチ特論
クリニカル・インフォマティクス特論
産学リンケージ特論

修士課程 医歯理工学専攻 医療管理政策学（MMA）コース

標準修業年限1年で修士（医療管理学）が取得できる医療管理学コース、標準修業年限2年で修士（医療政策学）が取得できる医療政策学コースがあります。

人材育成目標

医療管理政策学コースにおいては、医療サービスに関わる社会的ニーズに応えるため、指導的立場で活躍する人材養成課程を基に医療管理並びに医療政策の分野において、患者中心のより良い医療を効率的に提供できる社会システムの構築に寄与する人材を育成する。

履修コースの概要

本コースの教育方針は、四大学（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）の連携を基盤に、高い水準の幅広い学術分野の教育を社会人等を対象として提供し、医療サービス提供の単なる実務家ではなく、管理運営に携わる管理職を育成することにある。

履修内容は、これまでの医療管理における組織管理や安全管理を含む医療関連分野を網羅した包括的なものであり、法学、経済学、工学、社会学、倫理学をも含む以下の項目について習得する。

- | | |
|------------------|-----------------|
| (1) 医療政策 | (6) 施設設備と衛生管理 |
| (2) 医療の質確保とリスク管理 | (7) 経営戦略と組織管理 |
| (3) 医療関連法規と医の倫理 | (8) 人的資源管理と人材開発 |
| (4) 病院情報とセキュリティ | (9) 医療における情報発信 |
| (5) 医療の国際文化論 | (10) 臨床疫学 |

特色

少子高齢化を背景とする国民医療費・社会保障費の高騰、良質で安全な医療サービスの提供の必要性、競争原理のいっそうの導入、国際化・グローバル化する医療経営環境、患者の主体性の重視等、医療を取り巻く社会環境が急速に変化している。このような状況にあって、今後の医療機関運営では、医学だけでなく医療サービス管理と政策の高度な知識と技術が必要である。

本コースは、医療管理並びに医療政策の分野において指導的立場で活躍する人材の養成を図り、医療サービスに関わる社会的ニーズに応えようとするものである。急速な制度改革、グローバル化が進む医療の分野にあって、患者中心のより良い医療を効率的に提供できる社会システムの構築に寄与する人材を輩出しようとするものである。

社会的ニーズ

現在、我が国の医療を取り巻く環境は、少子高齢化の進行、疾病構造の変化、医療技術等の進歩による国民医療費の増大などで急速に変化しつつある。また、医療に対する国民のニーズは多様化し、医療の質の確保や医療事故の防止が目下の急務となっている。これらの医療環境の変化に対応するには、医療機関の経営方法が大きな問題となってきた。

また、医療施設の機能分化も進み、民間の品質管理の手法も導入され、医療機能評価機構による医療施設の第三者評価を受ける施設も増加してきている。

こうした中、各医療機関の管理者は、安全対策の強化、EBM（Evidence-Based Medicine）の遂行、インフォームド・コンセントやカルテ開示等による医師と患者の関係、電子カルテによるIT技術の導入とその運営方法など、社会的にも経営的にも大きな変革を求められてきている。

医療環境や各種報告されている医療の方向性等を正確に認識し、良質の医療を提供するためには、医療関連分野を網羅した包括的な研究・教育が必要である。そのためには、幅広い周辺諸科学の知識を持つ、医療機関の管理運営責任者、及び科学的根拠に基づいた政策の立案・実施・評価を行う専門家の養成が急務となっている。

博士課程 医歯学系専攻

標準修業年限は4年とし、博士（医学）、博士（歯学）、博士（学術）の学位のいずれかが取得できます。

人材育成目標

医学と歯学の両分野の専門的知識を熟知し、他分野との緊密な連携により世界をリードする研究者、教育戦略を打ち立て実行できる心豊かな教育者、高い倫理観を有する研究心旺盛な高度専門医療人、そして新しい時代を開拓するオピニオンリーダーを育成する。

アドミッション・ポリシー

本専攻が掲げる人材育成目標に鑑みて、本専攻では、幅広い視野と創造性、自立性、倫理観を備えており、自分の考えを論理的かつ的確に表現する能力と研究遂行に必要な英語力を有している者で、下記の項目のいずれかに該当する者を求める。

- | | |
|----------|------------|
| (1) 医学領域 | (3) 生命理学領域 |
| (2) 歯学領域 | (4) 生体工学領域 |

(1)～(4)に関する高度な学識及び実務能力を持ち、さらなる関心と研究への強い意欲を有している。

カリキュラム・ポリシー

医学・歯学領域での高度な研究・教育・医療における専門性を追求するとともに分野間あるいは他領域との連携、生命科学に必要な倫理的・社会的な側面についても十分対応できるよう、またコースワークとリサーチワーク（研究実習）のバランス及びそれらの有機的なつながりを重視して教育を推進する。

コースワーク

- | | |
|--|---|
| 1. コースワークは、原則として1～2年目で履修する。ただし、大学院セミナー、特別講義及び特別プログラムは1～4年目で履修する。 | 6. リサーチワークとの円滑なつながりを確保するために、所属分野の演習を履修する。 |
| 2. 倫理などの生命科学全般の基礎や研究遂行に必要な方法論の教育のために、初期研究研修プログラムを設定している。 | 7. 学内外の高度専門家を講師として、多彩なテーマで「大学院セミナー」、「特別講義」を開催しており、必要に応じて履修する。 |
| 3. 高度の専門性を修得することを目的に、所属分野の特論を履修する。 | 8. 年度ごとに特定のテーマに絞った特別プログラムが開設されており、プログラムのコースあるいは講義単位で履修する。 |
| 4. 包括的な臨床知識、技術を修得することを目的に、複数の分野の臨床演習を履修する。 | 9. 国際性の向上のため、外国語による専門分野の講義や外国語によるプレゼンテーション能力を養成する講義を行っている。 |
| 5. 他分野・他領域との連携的な学術修得のために、所属分野以外が開設する特論を履修する。 | |

リサーチワーク

- | | |
|--|---|
| 10. リサーチワークは、生命倫理、利益相反、遺伝子組換え等の委員会の承認のもと、原則として2～4年目に行う。 | の共同研究あるいは研究指導委託による国内外の他の機関での研究もリサーチワークの対象となる。 |
| 11. 原則、所属分野担当教員を責任者として、所属分野における専門的研究を行う研究実習科目を配置している。分野間 | 12. 複数指導体制による研究指導及び論文作成指導を行っている。 |

その他

13. 長期履修学生制度、早期修了制度、研究者養成コース、医学研究者早期育成 (DDS-PhD) コースなどを用意し、多様な学生の要請に応えたカリキュラムを用意している。

ディプロマポリシー

所定の期間在学し、医歯学系専攻の開設科目を履修して修了要件単位数を修得し、本専攻が行う博士論文の審査及び最終試験に合格した次の要件を満たす者に学位を授与する。学位の名称は、医学領域においては博士（医学）、歯学領域においては博士（歯学）、医学・歯学の連携領域又は多分野領域においては博士（学術）とする。

- | | |
|---|---|
| 1. 卓越した研究成果をあげており、人類の健康と福祉に貢献できる研究能力を有している。 | 3. 医歯学教育に関する多面的な知識と専門的知識をあわせ持ち、医学界、歯学界をリードする能力を有している。 |
| 2. 高い専門性と倫理観を持ち、先駆的、独創的研究を指導できる能力を有している。 | 4. 高度専門的医療人として、臨床研究において先駆的医療の発展に寄与できる能力を有している。 |

教育研究分野

●口腔機能再構築学講座

口腔病理学
細菌感染制御学
分子免疫学
先端材料評価学
口腔病態診断科学
有機材料学
機能材料学
口腔放射線腫瘍学
顎口腔外科学
口腔放射線医学
麻酔・生体管理学
疼痛制御学
小児歯科学
咬合機能矯正学
う蝕制御学
摂食機能保存学
歯髄生物学
部分床義歯補綴学
インプラント・口腔再生医学

●顎顔面顎部機能再建学講座

形成・再建外科学
顎顔面外科学
腫瘍放射線治療学
顎顔面解剖学
認知神経生物学
分子発生学
分子細胞機能学
金属材料
バイオデザイン
顎顔面外科学
顎顔面矯正学
顎顔面補綴学

●生体支持組織学講座

細胞生物学
病態代謝解析学
運動器外科学
硬組織構造生物学
硬組織薬理学
結合組織再生学
硬組織病態生化学
分子情報伝達学
無機材料学
歯周病学

●環境社会医歯学講座

国際健康推進医学
国際環境寄生虫病学
法医学
政策科学
分子疫学
研究開発学
医療政策情報学
先進倫理医学
法歯学
医療経済学
歯学教育開発学
健康推進歯学
スポーツ医歯学
歯学教育システム評価学
教育メディア開発学
保険医療管理学

●老化制御学講座

血流制御内科学
リハビリテーション医学
高齢者歯科学

●全人的医療開発学講座

臨床検査医学
生体集中管理学
心療・緩和医療学
薬物動態学
臨床医学教育開発学
救急災害医学
臨床腫瘍学
障害者歯科学
総合診療歯科学
歯科心身医学
歯科医療行動科学
顎関節口腔機能学
先駆的医療人材育成

●認知行動医学講座

神経機能形態学
システム神経生理学
細胞薬理学
分子神経科学
神経病理学
眼科学
耳鼻咽喉科学
脳神経病態学
精神行動医科学
脳神経機能外科学
血管内治療学
NCNP 脳機能病態学

●生体環境応答学講座

免疫アレルギー学
ウイルス制御学
免疫治療学
環境生物学

生体防御学

病態細胞生物学
代謝応答化学
免疫応答制御学
発生発達病態学
膠原病・リウマチ内科学
皮膚科学
NCCHD 成育医学

●器官システム制御学講座

人体病理学
細胞生理学
分子細胞循環器学
分子代謝医学
幹細胞制御
分子薬理学
細胞機能調節学
統合エビゲノミクス
時間生物学
幹細胞医学
統合呼吸器病学
消化器病態学
総合外科学
循環制御内科学
心肺統御麻酔学
心臓血管外科学
腎臓内科学
生殖機能協同学
腎泌尿器外科学
消化管外科学
呼吸器外科学
都医学研疾患分子生物学

●先端医療開発学講座

臨床解剖学
システム発生・再生医学
包括病理学
分子腫瘍医学
診断病理学
疾患モデル動物解析学
シグナル遺伝子制御学
生体機能分子科学
先端計測開発医学
先端機器開発医学
バイオメカニクス
生体界面工学
生体材料機能医学
遺伝制御学
生命情報学
遺伝子応用医学
分子細胞遺伝学
遺伝生化学
構造生物学
血液内科学
分子内分泌代謝学
肝胆脾外科学
整形外科
画像診断・核医学
疾患ゲノミクス
疾患多様性遺伝学
応用再生医学
JFCR 腫瘍制御学

博士課程 生命理工学系専攻

標準修業年限は3年とし、博士（理学）、博士（工学）のいずれかが取得できます。

人材育成目標

生命理工学分野に精通し、生命理工学と疾患研究領域との融合的学際分野において幅広い教養と国際的な視野を有し、高度な専門性と実践的問題解決能力を持った人材、とりわけ先端的な研究遂行能力を有する研究者、卓越した学識と優れた人間性を有する教育者、バイオ産業や医療機器開発などにおいて先端的な技術革新を実現するためのマネジメント能力を身につけ、産業界で活躍できる人材を育成する。

アドミッション・ポリシー

本専攻が掲げる人材育成目標に鑑みて、本専攻では、下記のすべてに該当する者を求める。

- | | |
|---|---|
| (1) 入学後の修学に必要な学術に関する英語力を持ち、英語による生命理工学に関するコミュニケーション能力を有している。 | (4) 生命理工学領域に深い学識と優れた研究遂行能力を有している。 |
| (2) 生命理工学に関する幅広い知識を体系的、集中的に学びとる意欲がある。 | (5) 生命科学や生体工学に深い関心と融合領域を開拓する幅広い視野を持ち、創造性と自立性を有している。 |
| (3) 高度に専門化した生命理工学分野の教育者、研究者として将来、社会に貢献する意欲がある。 | (6) 協調性に富み、自分の考えを論理的かつ的確に表現する能力を有している。 |

カリキュラム・ポリシー

生命理工学領域での高度な専門性を追求するとともに、国際性及び疾患研究やバイオ産業領域における発展性を重視した教育を行う。また、医学・歯学領域に必要な倫理的・社会的な側面も配慮した教育を行う。

●内容

- | | |
|--|--|
| 1. 倫理などの生命科学全般の基礎や研究遂行に必要な方法論の教育のために、初期研究研修プログラムを設定している。 | 4. 国際性の向上のため、外国語による専門分野の講義や外国語によるプレゼンテーション能力を養成する講義を行っている。 |
| 2. 高度の専門性を修得することを目的に、所属分野の演習、研究実習を履修する。 | 5. 複数指導体制による研究指導及び論文作成指導を行っている。 |
| 3. 学内外の高度専門家による多彩なテーマの「生命理工先端特論」、「大学院セミナー」や、他分野が開設する特論を必要に応じて履修する。 | |

原則、所属分野担当教員を責任者として、所属分野における専門的研究を行う特別研究科目を配置している。分野間の共同研究あるいは研究指導委託による国内外の他の機関での研究もリサーチワークの対象となる。



講義風景



ディプロマポリシー

所定の期間在学し、生命理工学系専攻の開設科目を履修して修了要件単位数を修得し、本専攻が行う博士論文の審査及び最終試験に合格した以下のいずれかの要件を満たした者に学位を授与する。学位の名称は、生命理学領域においては博士（理学）、生体工学領域においては博士（工学）とする。

- | | |
|---|---|
| 1. 卓越した研究成果をあげており、先端的・分野融合的な生命理工学の発展に貢献できる研究能力を有している。 | 3. 生命科学や生体工学に関する多様な知識や技術を持ち、先端的技術開発を通して、医療・バイオ産業界の発展に貢献できる能力を有している。 |
| 2. 高い専門性と倫理観を持ち、次世代の生命理工学を担う人材育成に貢献できる能力を有している。 | |

■教育研究分野

金属生体材料学 無機生体材料学 有機生体材料学 物質医工学 バイオメカニクス バイオエレクトロニクス バイオ情報 センサ医工学 メディシナルケミストリー 生命有機化学 薬化学	分子細胞生物学 高次神経科学 生体情報薬理学 分子構造情報学 発生再生生物学 免疫学 分子遺伝学 環境エビゲノム エビジェネティクス システム情報生物学
環境遺伝生態学	理研生体分子制御学 NCC腫瘍医科学

■授業科目

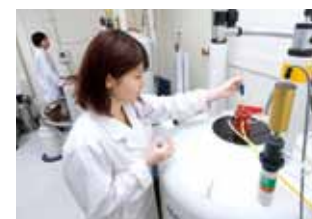
- | | |
|--|--|
| ●必修科目
生命理工学先端研究特論
研究実習・演習 | ●疾患予防科学コース特論科目
疾患予防科学概論Ⅰ
疾患予防科学概論Ⅱ
データサイエンス特論Ⅰ
データサイエンス特論Ⅱ
マネジメント特論
国際動向特論
知的財産特論 |
| ●生命理工学特論科目
生命科学特論Ⅰ
生命科学特論Ⅱ
生命情報科学特論
先端機能分子特論
生体機能材料学特論
生体材料工学特論
ナノバイオテクノロジー特論
英語プレゼンテーション特論
理研生体分子制御学特論 | |



有機合成による創薬研究



材料表面分析



NMRによる機能分子の構造解析



最先端診断技術の開発



次世代シーケンサを用いた研究



フローサイトメーターを用いた免疫細胞についての研究



マウスの発生工学①



マウスの発生工学②

大学院

保健衛生学研究科

- 5年一貫制博士課程 看護先進科学専攻
- 5年一貫制博士課程 共同災害看護学専攻
- 博士（前期）課程 博士（後期）課程 生体検査科学専攻



看護学・検査学の諸課題を 学術的な視野で捉え、組織的に取り組む

1993年に博士（前期）課程が、1995年に博士（後期）課程が設置され、
2000年に大学院保健衛生学研究科として医学系研究科から独立。

2001年には総合保健看護学専攻と生体検査科学専攻の2専攻を有する、看護学、検査学としては
我が国で初めての大学院重点化大学として部局化されました。

そして、2014年には、総合保健看護学専攻を改組し、看護学において本邦初の
5年一貫制博士課程を設置しました。

保健衛生学研究科は看護学・検査学の諸課題を

学術的な幅広い視野で捉え、組織的に取り組むことを目的としています。

看護学、検査学の各学術団体や行政とも連携し、

生涯を通じて人々が高いQOL（Quality of Life）を維持できるように、

保健医療システムの開発構築の研究が期待されています。

また海外の提携大学と共同で大学院生の教育や研究を密に行っています。

アドミッション・ポリシー

本研究科では、保健学の領域における旺盛な研究心と問題解決型の思考力を身につけ、看護学・検査学の課題に対応する臨床指向型研究を積極的に推し進めることによって、将来、国際的・学際的な視野も踏まえて研究・教育力、実践能力を発揮できる人材の育成を基本理念としており、それぞれの専攻で以下の条件を満たす者を求めている。

看護先進科学専攻〔博士課程〕

- (1) 看護学における専門的な知識と技術を発揮し、将来的に国際的・学際的な視野から看護学における研究の進歩と実践の向上、後継者育成に貢献しうる能力と意欲を有している（5年一貫教育全般）。
- (2) 看護学における高度な専門的知識と技術を獲得し、看護学研究における総合的な判断力と遂行力並びに高い倫理観を身につけ、将来、研究・教育・臨床現場をリードしていくことを目指している（Nurse-Investigator 育成 Pathway コース）。
- (3) 複雑高度な看護課題への対応のために、臨床看護経験と高度な専門的知識と技術並びに高い倫理観を身につけ、専門看護師教育科目の履修並びに臨床還元型研究を推進して博士号取得を希望している（CNS-D）。

共同災害看護学専攻〔博士課程〕

- (1) 災害看護学における専門的な知識と技術を身につけ、将来的にグローバルリーダーとして国際的・学際的な視野から災害看護学における卓越した実践、教育研究に貢献しうる能力と意欲を有している。
- (2) 災害看護の高度専門職業人として、卓越した実践力とリーダーシップで、災害支援に貢献しうる能力と意欲を有している。
- (3) 災害看護に関する高い専門性をもとに、俯瞰的・独創的事業や卓越した政策立案、施策等で、人々の安全・安心に貢献することを目指している。

生体検査科学専攻〔博士（前期）課程〕

- (1) 検査学における専門的な知識と技術を実践に身につけ、総合的な判断力と遂行力並びに高度な倫理観を備えた高度専門職業人として、臨床現場をリードしていくことを目指している。
- (2) 国際的・学際的な視野から、将来的には検査学における優れた臨床指向型研究を担う基礎的な能力と意欲を有している。
- (3) 将来的には、優れた専門職業人と研究者を育成するための教育を担っていく資質と意欲を有している。

生体検査科学専攻〔博士（後期）課程〕

- (1) 検査学における専門的な知識と技術を発揮し実践と研究に取り組んできた経験を有し、総合的な判断力と遂行力並びに高度な倫理観を備えた高度専門職業人として、臨床現場におけるリーダーシップを発揮していくことを目指している。
- (2) 臨床指向型研究への取り組みに成果を上げつつあり、将来的には国際的・学際的な視野から、検査学における研究の進歩と実践の向上に貢献し得る能力と意欲を有している。
- (3) 将来的には、優れた専門職業人と研究者を育成するための教育を指導的に担っていく意欲と使命感を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護先進科学専攻、共同災害看護学専攻、生体検査科学専攻の3専攻があり、それぞれのカリキュラムを開設している。専攻ごとに看護学・検査学の課題に対応する臨床指向型研究を積極的に推し進めることによって、将来的には国際的・学際的な指導力、教育力を発揮できる人材の育成を基本理念としている。

看護先進科学専攻〔博士課程〕

- (1) 専門的な看護実践や研究、教育的役割に必要な方法論について、共通科目を履修する。
- (2) 所属分野の専門性や高度な実践、研究を主な内容とする特論を1学年に履修する。
- (3) 幅広い視野からの学修を促進するために、所属分野以外の分野が開設する特論を履修する。
- (4) 所属分野の高度な実践や研究について関連する知識や技術を高め、研究論文への取り組みを支援するために演習・実習科目を用意し、複数の教員、指導者、プリセプターによる指導を受ける。
- (5) 研究論文指導においては、関連領域への幅広い知的・倫理的な理解を高めるため、他分野の教員からの研究指導を受けることができる。

共同災害看護学専攻〔博士課程〕

- (1) 災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割に身につけるための3つの科目群と演習、実習並びに研究支援科目群を履修する。
- (2) 看護学の学問基盤に関する科目、災害グローバルリーダーに必要な科目、演習・実習を履修する。
- (3) 幅広い視野からの学修を促進するために、国際的・学際的な能力育成に取り組む。
- (4) 災害看護学に関する高度な実践や研究について関連する知識や技術を高め、研究論文への取り組みに力を注ぐ。

生体検査科学専攻〔博士（前期）課程〕

保健衛生学研究科の人材育成目標に到達するため、以下の方針に基づき教育を行う。

- (1) 専攻を越えた学習が必要な保健学関連の科目を、共通科目として履修できる。
- (2) 実践や研究を担うために必要な方法論について、専攻としての共通科目を用意し、履修できる。
- (3) 所属分野の高度な実践や研究を主な内容とする特論を1学年で履修する。
- (4) 幅広い視野からの学習を促進するため、所属以外の分野が開設する特論を履修できる。
- (5) 所属分野ごとの高度な実践や研究に関連する知識や技術を高め、研究論文への取り組みを支援するため、演習を用意し複数の教員から指導を受けることができる。
- (6) 所属分野ごとの高度な実践について学ぶため、実験科目を履修する。
- (7) 関連領域への幅広い知的・倫理的な理解を高めるため、他分野の教員からも研究指導を受けることができる。
- (8) 国際的視野を身につけるため、外国語による授業を行っている。
- (9) 社会人入学制度、長期履修制度を設け、多様な学生の要請に応えたカリキュラムを用意している。

生体検査科学専攻〔博士（後期）課程〕

保健衛生学研究科の人材育成目標に到達するため、以下の方針に基づき教育を行う。

- (1) 所属分野の高度な実践や研究を主な内容とする特論を1学年で履修する。
- (2) 幅広い視野からの学習を促進するため、博士（前期）課程の科目を10単位まで履修できる。
- (3) 研究論文への取り組みを支援するため、演習を用意し複数の教員から指導を受けることができる。
- (4) 関連領域への幅広い知的・倫理的な理解を高めるため、他分野の教員からも研究指導を受けることができる。
- (5) 社会人入学制度、長期履修制度を設け、多様な学生の要請に応えたカリキュラムを用意している。

看護先進科学専攻

日本の看護系大学院のパイオニアとして、
看護の実践・教育・研究を常にリードする役割を担います。

我が国における看護系大学院の牽引役として、
そしてさらに国際的な看護の実践・教育・研究の発展に
貢献することを目標に、教育研究に取り組んでいます。

看護先進科学専攻の特色

看護先進科学専攻は、総合保健看護学専攻からの改組で我が国初の看護系大学院 5 年一貫制博士課程となりました。これまでと同様に看護学の教育・研究・臨床の 3 本柱を堅持しており、5 年一貫教育の利点（長期的展望で博士論文作成、在学期間短縮制度により最短 3 年での修了等）を最大限に活かした研究生活が実現できます。

専門看護師教育課程の履修を目指す人は、最初の 2 年間で必要科目を取得し、その後は専門看護師認定試験も視野に入れ、学位論文ではトランスレーショナルリサーチや介入研究など、卓越した臨床実践力を活かした臨床研究にチャレンジできます。

さらに本専攻では、「Nurse-Investigator 育成 Pathway コース」という、若手看護学研究者育成のコースを新たに設置します。これは将来研究者を目指す人が学部在学中から大学院科目を履修し（大学院入学後に単位認定）、学部卒業後はそのまま大学院に進学します。そして個々人の希望と能力に応じた Pathway に添って、研究所、医療施設等への派遣や海外短期留学等の実地研修を含めた学業を遂行します。

本研究科は我が国の看護学を牽引する教育・研究者の輩出のみならず、5 分野の専門看護師教育課程から多くの専門看護師を誕生させてきました。また大学院教育の競争的資金を数多く獲得し、海外の大学との大学間協定による国際的・学際的な教育・研究交流も推進しています。

なお 5 年一貫制ではありますが、修士号保持者は、単位認定等により就業年限短縮による博士課程修了と博士号取得が可能です。

基盤看護開発学講座

人間のあらゆる生活の場、治療・療養の場において、健康レベルの高い人々にはさらなる健康の維持・増進と、健康障害を有する人々には高度で専門的かつ効果的効率的なケアの提供によって、健康障害からの回復が図れるよう、看護学の基盤をなす知識体系の開発と構築・集約に資する高度な教育研究を行う。

- 看護ケア技術開発学領域 ----- 看護ケア技術開発学分野
- ヘルスプロモーション看護学領域 ----- 地域保健看護学分野、地域健康増進看護学分野

臨床看護開発学講座

人間の誕生から成長発達、そして年を重ね終焉を迎える一連の長い過程の中で、生きること、大人になること、家族を持つこと、病を得ること、死を迎えるなど、人生のさまざまな場面で看護援助を必要とする人々に、高度で専門的な看護ケアが提供できるよう、新たな看護知見の発見と獲得と臨床看護ケアとしての還元に繋がる学際的な教育研究を行う。

- 先端侵襲緩和ケア看護学領域 ----- 先端侵襲緩和ケア看護学分野
- 精神・人間発達看護学領域 ----- 精神保健看護学分野、小児・家族発達看護学分野、
リプロダクティブヘルス看護学分野
- 在宅がんエンドオブライフケア看護学領域 ----- 在宅ケア看護学分野、がんエンドオブライフケア看護学分野

先導的看護システム開発学講座

国際的学際的視野に立った、次世代・高齢社会を見据えた高度で専門的な看護ケアとケア提供システムの開発ができる人材育成と、ケアやケアシステム開発に繋がる研究を行う。

- 国際的看護システム開発学領域 ----- 国際看護開発学分野、看護システムマネジメント学分野
- 高齢社会看護ケア開発学領域 ----- 高齢社会看護ケア開発学分野

共同災害看護学専攻

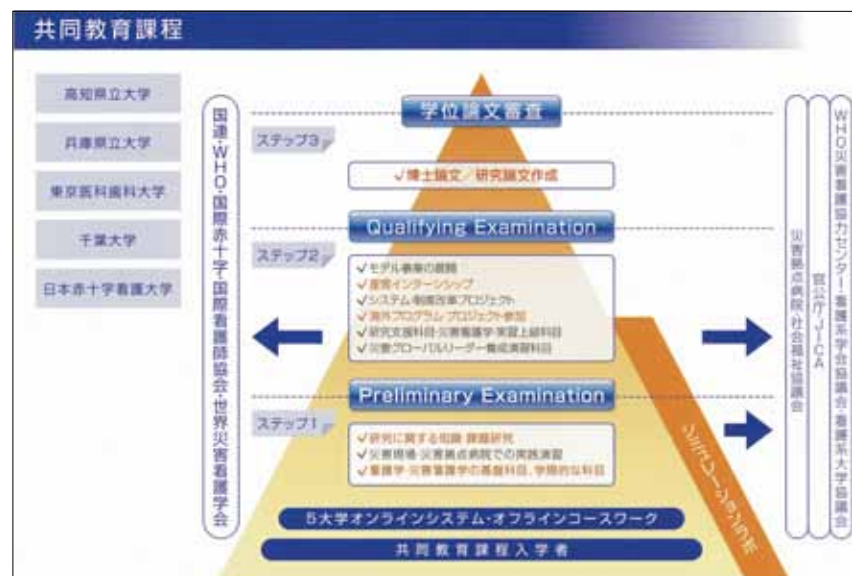
国公私立 5 大学の共同大学院で高度な実践能力と研究能力を兼ね備えた
災害看護のグローバルリーダーを育成します。

日本並びに世界で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し
解決できる高度な実践能力かつ研究能力を兼ね備え、
国際的・学際的指導力を発揮するグローバルリーダーを養成します。

共同災害看護学専攻の特色

共同災害看護学専攻は、博士課程教育リーディングプログラム事業（文部科学省）により、2014 年度に開設された新専攻です。本プログラムは高知県立大学を代表校として、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学、そして本学の 5 つの大学院が蓄積してきた資源を共有し、それぞれの研究科のもとに 5 年一貫制博士課程の共同教育課程を設置しました。その目的は、看護学を基盤として、他の関連諸学問と相互に関連・連携しつつ、学術の理論及び応用について産・官・学を視野に入れた研究を行い、特に災害看護に関してその深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与することです。また、求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、学際的・国際的指導力を発揮するグローバルリーダーとして高度な実践能力を有した災害看護実践者並びに災害看護教育研究者を養成することを目標としています。

本学入学生は、本学に籍置き、遠隔教育システムなどを活用して、5 大学で開講される教科を相互履修し、各大学が強みとする領域についての学習を深めつつ、本学の特徴を活かして実践や研究を展開していきます。本学は、医療系総合大学であり、附属病院を有すること、産学連携の実績があることに加え、海外の大学との国際交流においてシミュレーション教材の開発等も手掛けてきた経験から、特に、災害急性期における医療活動や、産学連携、新たな教育方法の開発などに取り組んでいます。



共同教育課程のコースモデル



現場救護所での医療活動を想定したシミュレーション授業の様子

※「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産官学にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産官学の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する最高学府にふさわしい大学院の形成を目的とする事業です。

生体検査科学専攻

生体検査科学のスペシャリストとして、
日本の教育・研究をリードし、
世界の臨床検査学の発展に寄与します。

我が国の生体検査科学系大学院の牽引役として、
学際的・国際的な臨床検査領域の実践・教育・研究の発展に
貢献すべく、全スタッフが共同して取り組んでいます。

生体検査科学専攻の特色

医学・医療が急速に進歩し、ますます高度化・専門化・尖鋭化していく中で、生体検査科学も例外ではありません。本専攻は大学院重点化大学として、全国の国立大学に先駆けて、1993年に博士（前期）課程を、1995年には博士（後期）課程を設置しました。分子・細胞レベルから器官・個体レベルまでの生命情報の解析と病因・病態の解析、感度・特異度の高い臨床検査法・機能解析法の開発、病院・診療所での臨床検査システムの開発、リハビリテーション・在宅での生体支援システムの開発等を目指した教育・研究を行います。そのためには、高度な専門的知識とともに、臨床現場に精通し、幅広い教養と学際的・国際的視野をもち、自ら問題を提起して解決していく人材の養成を目指して教育研究を行っています。

生体検査科学専攻は、生命情報解析開発学と分子・遺伝子応用検査学の2つの大講座に9つの専門分野を持ち、博士（前期）課程と博士（後期）課程の教育を連動して行っています。博士（前期）課程では、学士課程で修得した専門的知識・技術を基盤に、生体検査科学分野における科学的思考力と研究能力、倫理観と実践力を養い、各専門分野のスペシャリストとして学識を深め、指導者・研究者・教育者としての能力を修得します。それぞれの専門分野は日進月歩で新しい知識や技術を蓄積しつつあり、それらを理解し応用できる能力を身につけ、学際的・国際的に活躍できる基盤を修得します。

博士（後期）課程では、高度に専門的な業務に従事するのに必要な高い学識・技術・応用力を身につけ、生体検査科学分野における研究者として自立して研究活動を行います。自ら研究テーマを設定し、研究計画の立案・実施・解析・考察を行い、研究成果を発表し、国際誌へ報告します。また、専門分野に関する学識だけでなく、基礎・臨床・社会医学、医工学や分子生物学などの関連領域の研究者と共同研究ができる能力を養います。すなわち、独立した研究者として認められる能力、学際的・国際的な研究を遂行するリーダーとしての能力を修得し、倫理性・科学性にすぐれた研究者・教育者・管理者としての資質を有する高度専門職業人及び研究者を目指します。



ドラフト内で作業中



記録しながら画像データを検討



指導教員と実験結果を検討



実験作業に集中



薬品の計量は慎重に

生命情報解析開発学講座

■形態・生体情報解析学

人体の構造と機能について理解し、形態・機能検査の基礎と応用技術を学ぶ学問です。人体各器官系の構造と機能、比較形態学、動物実験等に関する実験方法と解析法、文献検索法、プレゼンテーション方法等を学びます。

■分子生命情報解析学

細胞生物学・分子生物学・代謝学を学び、細胞内情報伝達と代謝の観点から生命活動を研究する学問です。ゲノミクス、プロテオミクスの解析がもたらした生命科学の新しい展開と最先端の研究成果を理解し、生命科学研究に必要な知識・技術・考え方を身につけます。

分子・遺伝子応用検査学講座

■先端分析検査学

患者さんから採取した血液、尿、胸水、腹水、脳脊髄液などに含まれる化学成分の変動をとらえ、疾病の診断と治療に結びつける学問です。目的に応じた分析法の選択と应用能力を身につけ、新たな検査項目の開発を目指します。

■生体防御検査学

感染症の原因及び病態、病原微生物の検査及び診断への応用、さらに免疫学の基礎と応用を追求する学問です。微生物学と免疫学の理論的基礎、実験法、応用技術を身につけます。

■分子病態検査学

疾病の本態を解明するため、肉眼的・組織学的・細胞学的・分子病理学的に病理像を追求する学問です。病理学的検査法の理論や技術を身につけ、病因・病態の解明と診断への寄与を目指します。

博士課程

博士（前期）課程

各自の所属分野において研究方法を学び、研究テーマを定めて文献検索・研究計画を検討します。そして調査・実験・事例分析などによりデータを収集し、解析・検討を加えて学会に発表し、論文としてまとめる能力を修得します。また同時に所属分野以外の科目を選択し、さらに医療情報学や病因・病態解析学などの総合保健看護学専攻との共通科目を選択し、幅広い知識と技術を身につけます。

■生命機能情報解析学

患者さんから各種生体現象を測定・解析し、生体の動きと疾患の病因・病態を解明する学問です。神経生理機能検査、循環機能検査、呼吸機能検査、画像診断検査等を中心に、各種生体機能解析法の基礎と応用技術を研究します。

■生体機能支援システム学

生体計測に必要な物理・化学的原理を基礎に、適正な生体計測や新たな計測法を開発する学問です。無拘束・無侵襲計測法の重要性を学び、新しい生体計測法・計測技術を模索する研究能力を養います。

■先端血液検査学

血液学的・分子生物学的手法を用いて疾患の早期診断・治療・予防・病態解析を研究する学問です。血液検査、分子・遺伝子検査の技術と応用力を身につけます。

■先端生体分子分析学

生体検査科学専攻の教育研究協力分野で、分析機器を用いた有機分析化学を主体に、新たな分析方法を開発する学問です。有機分析化学の基礎を学び、生命を形作る有機化合物の分子の化学構造を電磁気分光学的手法で研究します。

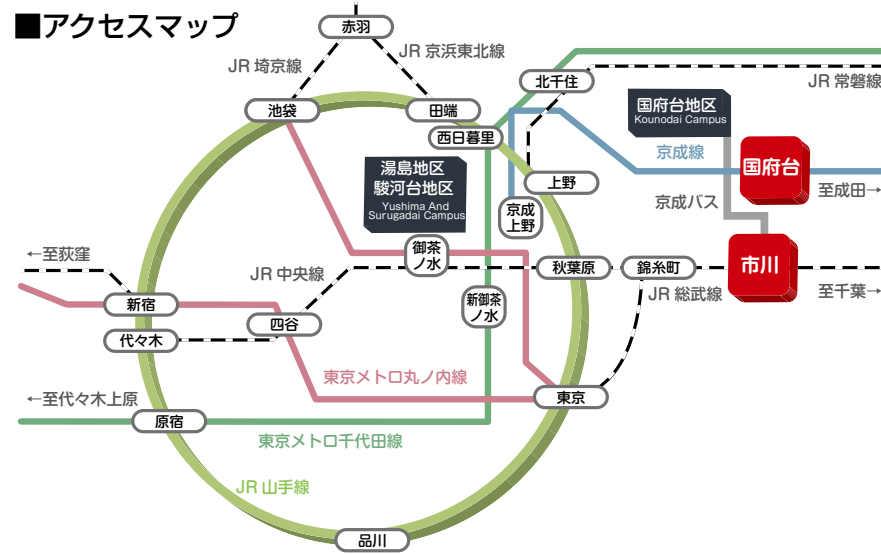
博士（後期）課程

前期課程で修得した科学的なものの見方・考え方・研究手法などの基礎知識・技術を生かして自らテーマを設定し、自立した研究活動を行います。高度に専門的な業務に従事するのに必要な高い学識・技術・応用力を身につけ、学際的・国際的な研究を行うリーダーとしての能力を養い、高い倫理観をもった研究者・教育者・管理者としての資質を有する高度専門職業人を目指します。

KOUNODAI CAMPUS 国府台地区

すべての学生にとって最初の学舎となる教養部がおかれている国府台地区。
東京都に隣接する千葉縣市川市にあり、湯島・駿河台地区にも約 40 分でアクセスできます。

■アクセスマップ



- JR総武線市川駅より京成バス 1 番乗り場
(松戸駅松戸車庫行) 国立病院前下車…徒歩2分
- 京成電鉄国府台駅より…徒歩15分
(または駅前バス停より上記バスに乗り)



医学部	医学科……………	1 年次
	保健衛生学科……………	1 年次
歯学部	歯学科……………	1 年次
	口腔保健学科……………	1 年次

※本学では、教養部（国府台地区）にて「全学共通科目」を履修してから、湯島地区において「専門科目」を履修します。

■沿革と今

緑豊かなキャンパスで全学生がともに学び、サークル活動を楽しむ

国府台地区は、江戸川を挟んで東京に隣接する千葉縣市川市、下総台地の西端にあたる高台に位置します。国府台の地名は、大化の改新によってできた新政府により、この高台に下総の国府がおかれたことに由来します。この地域が昔から交通の要所であったためです。室町時代には現在の里見公園北側に国府台城が作られ、江戸時代になると、国府台一帯は、曹洞宗の寺院の総支配権を持つ総寧寺の広大な寺域となりました。明治になって国立大学の候補地になりましたが計画は立ち消えとなり、その後、軍の施設がおかれるようになります。戦後、その跡地が文教地区となってよみがえり、現在の姿になりました。教養部の前身は旧制大学の予科ですが、その後、紆余曲折を経て、教養部として大学の分院のあったこの国府台に設置され

ました。以来、国府台地区は東京医科歯科大学の教養教育の拠点となるとともに、体育館、プール、弓道場、武道館、グラウンドがおかれ、学生の課外活動の中心ともなっています。約 6 万㎡の緑豊かなキャンパスには、法皇塚古墳があります。大学キャンパス内に古墳のある大学も珍しいのですが、これもこの地域が歴史的に重要な地域だったことを示しています。また、豊かな感性を身につけてもらうために、キャンパス内には絵画や彫刻作品を展示しています。これらは東京藝術大学の卒業制作作品を借り上げたものです。このような環境で、学生は大いに学び、サークル活動等を通じてお互いの交流を深めながら、充実した毎日の中で将来への夢を育みます。



図書館

国府台分館（国府台地区）

全学共通科目の学習に必要な幅広い分野の図書約8万冊を所蔵しています。静謐なりサーチエリアと共に活発な空間ラーニングcommonsが新設され、ノート型 PC とタブレット PC が提供されており、グループ学習にも利用することができます。

利用時間：平日 9:00 ～ 20:00（授業開講日）
平日 9:00 ～ 17:00（上記以外）
休館日：土・日・祝日、年末年始（12/29 ～ 1/3）



キャンパスそぞろ歩き



管理研究棟



ヒポクラテスホール



シャン・ドゥ・コースリー



「トシノカラス」



「あいあん ペインティング」



「カラス」



「Beginning of my journey」

YUSHIMA AND SURUGADAI CAMPUS

湯島地区・駿河台地区

東京都心の歴史ある地域に広がる湯島・駿河台地区。
研究棟や附属病院が建ち並ぶキャンパスで、
高度な知識と技術を持つ医療人を育成するための専門教育が行われます。

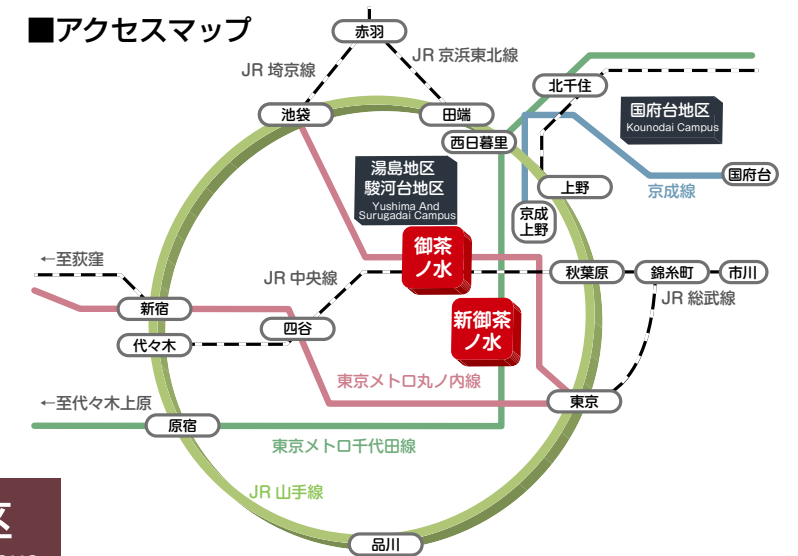
医学部	医学科……………	2～6年次
	保健衛生学科……………	2～4年次
歯学部	歯学科……………	2～6年次
	口腔保健学科……………	2～4年次

※本学では、教養部（国府台地区）にて「全学共通科目」を履修してから、湯島地区において「専門科目」を履修します。



■アクセスマップ

- JR総武線・中央線御茶ノ水駅
御茶ノ水橋口より…徒歩2分
- 東京メトロ丸ノ内線御茶ノ水駅下車すぐ
- 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅
B1出口より…徒歩7分



キャンパスそぞろ歩き



御茶ノ水橋から神田川を望む。
左には本学歯科棟が見える



本学よりJR 御茶ノ水駅と神田
駿河台方面を望む



本学お茶の水門



M&D タワー2階ホワイエ



医科A 棟8階の庭園



本学エントランス



聖橋より本学を望む

生体材料工学研究所

近未来の医療を支える科学技術の世界的研究拠点

■ 研究所の概要

生体材料工学研究所は、駿河台地区の21号館および22号館に位置しています。医療系総合大学である東京医科歯科大学に設置された工学系の研究所として生体機能の修復・解析に用いられる生体材料や生体工学の研究・教育を行う、我が国で唯一の国立大学附置研究所です。医歯工連携というユニークな特徴を生かし、医学・歯学系の研究者や病院と密接に連携しながら機能分子、生体材料、生体システムなどの分野で医療における「ものづ

くり」を支える先導的な研究所として世界をリードする研究を進めており、これまでも多くの製品を社会に送り出してきました。教育面では本学の理念である「医歯工連携」の「工」の分野を担当し、生体材料、生体工学、そして創薬などの機能分子の教育を通じて、高度な先端医療を担い最先端研究を先導する人材の育成を行っています。

■ 未来医療を開く最先端研究

生体材料工学研究所では先端医療に関連する幅広い研究が行われており、数多くの研究成果が発表されています。これらの研究成果から、最先端の医薬品や医療用材料などが生み出されています。
【機能分子】 レチノイド（活性型ビタミンA）の作用を担う核内受容体の機能を特異的に制御する分子を創製し、白血病治療薬として臨床応用しました。さらに自己免疫疾患や脳機能疾患等への適応の拡大を進めています。（写真1）
【生体材料】 超高压処理技術による安全な再生医療用移植材料が開発され、これまでは不可能と言われていた角膜についても実験

レベルで優れた成果が得られており、臨床応用への準備を進めています。（写真2）
【生体システム】 生命システムが集団として持つ秩序と機能をチップ上に細胞を構成的に組上げて再構築することを目指し、iPS細胞から作ったヒト心筋細胞をチップ上で環状に繋げることで薬物副作用によるヒト致死性期外収縮の発生を予測できる「リエントリーモデル」の構築に成功しました。（写真3）医学部と連携して、内視鏡手術を支援するロボットシステムの開発を行っています。術者に力覚提示を可能として安全性を高めることを特長としており、数年後の臨床実験を目指しています。（写真4）

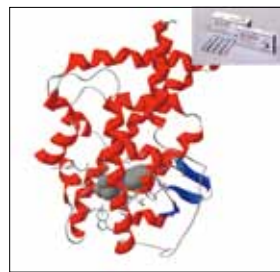


写真1



写真2

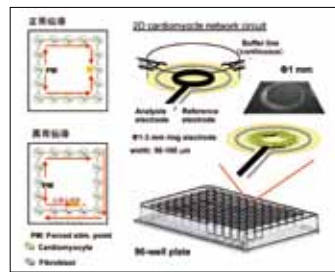


写真3



写真4

■ 社会の要請に応える学際領域の教育

本研究所の各分野は大学院医歯学総合研究科での学際領域の教育、研究にも参画しており、下記のような学位を取得するための研究指導を行っています。

【大学院医歯学総合研究科 修士課程医歯理工学専攻】

2年の標準修業年限で修士（理学）、修士（工学）、修士（医科学）、修士（歯科学）などが取得できます。

【大学院医歯学総合研究科 博士課程生命理工学系専攻】

3年の標準修業年限で博士（理学）、博士（工学）のいずれかが取得できます。

【大学院医歯学総合研究科 博士課程医歯学系専攻】

4年の標準修業年限で博士（医学）、博士（歯学）、博士（学術）の学位のいずれかが取得できます。

難治疾患研究所

“難治疾患”を標榜する我が国唯一の国立大学法人附置研究所

■ 研究所の概要

難治疾患研究所は、「難治疾患の学理と応用」を目的とした“難治疾患”を標榜する我が国唯一の国立大学法人附置研究所です。1973年、医学部附属の農村厚生医学、難聴、総合法医学、硬組織生理、遺伝病、心臓血管、内分泌の7つの研究施設の再編によって設置され、2004年より、先端分子医学、難治病態、ゲノム応用医学の3部門の下に、22分野、フロンティア・プロジェ

クト研究室、2連携研究部門が所属しています。本研究所は、2009年6月25日、我が国の学術研究の発展に特に資するものとして、文部科学大臣により全国共同利用・共同研究拠点「難治疾患共同研究拠点」に認定され、2010年度より活動をスタートさせました。また、大学の学部教育、大学院教育にも多大な貢献をしています。

■ 我が国をリードする研究活動

本研究所では、難治疾患を「病因・病態が明らかにされていないために未だ有効な診断法、治療法や予防法が確立されていない病気」と定義付け、生命誕生から老年期にわたる各時期の難治疾患を研究しています。特に、悪性腫瘍、循環器、運動器、免疫、代謝、神経及び稀な遺伝疾患の研究では、それぞれの領域を牽引する成果をあげるとともに、がんCGH解析、心筋症、先天異常症などの難治疾患バイオリソース、難治疾患オミックスデータ

ベースを産み出しています。

また、広い視点から基礎生命科学の最先端研究に大きな力を注いでおり、マウスは勿論、アフリカツメガエル、ショウジョウバエ、線虫、メダカを研究材料とした成果は、さまざまな疾患のモデル動物や細胞のリソースバンクとして蓄積されています。さらに、幹細胞研究の分野が加わり、発生・再生医学研究を力強く推進しています。

■ 充実した大学院教育研究支援施設

本研究所は、大学院教育研究支援施設を充実させており、現在、ゲノム解析室、細胞プロテオーム解析室、遺伝子組換えマウス実験室、形態機能解析室、バイオリソース支援室、幹細胞支援室、生命情報室、構造解析室の8つを整備しています。これらの研究支援室は、「難治疾患共同研究拠点」の活動と、本学の大学院教育を支援しており、さらに、設備・機器と研究経費の有効利用に貢献しています。

■ 学部、大学院生の教育及び若手研究者の育成

本研究所の教員は、本学医学部、歯学部、大学院医歯学総合研究科の教育を積極的に担っております。これまでの大学院生命情報科学教育部・疾患生命科学研究部は、2012年度より改組され、それぞれ修士の医歯理工学専攻、博士課程の生命理工学系専攻へと発展移行しましたが、すべての専攻の教育、研究に積極的に参画しており、疾患研究領域と先端的な生命科学との融合学際分野での人材育成に関わっています。また、お茶の水女子大学、学習院大学、北里大学と共同で行っている「学際生命科学東京コンソーシアム」でも講義・演習を担当しています。若手研究者育成のためのテニュアトラックプログラム（メディカルトップトラックMTT）を引き継ぎ、自主財源によるテニュアトラック制度を継続させています。この過程で常に女性研究者育成を心掛けています。



図書館

本館（湯島地区）

図書館本館は、M&D タワーの 3 階と 4 階に位置しています。
蔵書は、医歯学系の専門図書約 22 万冊です。その中には貴重書として、杉田玄白の「解体新書」の初版本、その元になった「ターヘル・アナトミア」、「ファブリカ」（人体構造論）*の初版本などもあります。

吹き抜けになっている閲覧室には、閲覧机を配し、座席数は 181 席、学生が自由に使える備え付けのノート PC、持ち込んだ PC を接続できる無線 LAN、コピー機 4 台が設置されています。自動貸出機や自動書庫など最新の設備も整えています。

4 階の情報検索室には、132 台の PC と、プリンター 2 台が設置されています。レポートの作成や e-learning など自主的な学習を進められる環境があります。

書籍だけでなく、著名な医学分野の教科書や参考図書を電子書籍として約 400 タイトル、医歯学分野の学習・研究には欠かせない電子ジャーナルを約 9000 タイトル、データベースを 12 タイトル提供しています。これらは、学内ネットワークを使って、教室や演習室からも利用できます。

また、明治大学の図書館と相互利用の協定を結んでいます。本学の学生は、明治大学の中央、和泉、生田図書館で書籍の閲覧や貸出を受けることができます。さらに、順天堂大学図書館、東京大学医学図書館、日本医科大学中央図書館、文京学院大学本郷図書館とも相互利用協定を結び、各大学の図書館で書籍を閲覧することもできます。



「解体新書」

* **ファブリカ** (人体構造論)：アンドレアス・ヴェサリウスの著した解剖学書で、1543 年に刊行された。近代医学の出発点をなしたと言われ、300 点以上の挿絵があり、写実的な解剖図が特徴である。



「ファブリカ」



閲覧室全景



情報検索室



閲覧コーナー

HP：<http://lib.tmd.ac.jp>

利用時間：平日 8：30 ～ 22：00、土・日・祝日 10：00 ～ 18：30
(プレ開館時は 8：30 より入館可)

休館日：年末年始 (12/29 ～ 1/3)

e - learning とは

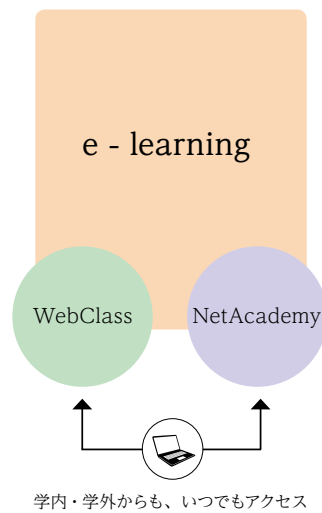
e-learning とは、web や PC など各種の情報技術を使った学習形態のことです。本学では学習支援システム WebClass、医学英語学習システム NetAcademy の 2 つのシステムで構成しています。

WebClass

WebClass は、教材のダウンロード、オンラインテスト、グループディスカッションなどが行えます。学内だけでなく、自宅からレポートを提出したり、休講情報を確認するといった使い方もできます。一部のコースでは、授業やセミナー、臨床医の基本技能、医療英会話などの映像を提供しています。いつでも自分が見たい時に学内のどこからでも、アクセスすることができます。また、本学の教職員が開発しているマルチメディアシミュレーション教育システムを利用したコースもあります。診療の映像や音声、検査の写真などから、学習者が診断や治療の手順をシミュレートし、その判断や選択の適否を学習することができます。

NetAcademy

NetAcademy は、感冒や骨折、狭心症などの症例について、医師と患者の英語の会話を聞いた、ウィルスやクローンといった医学関連の英文トピックが読み、学外からもアクセスが可能ですので、自分のペースで学習することができます。



保健管理センター

医療従事者を目指す学生たちの健康管理をサポート

学生に対する心身の健康の保持・増進を支援することを目的に運営されています。
湯島地区 5 号館 2 階にあります。国府台地区シャン・ドゥ・コーズリー 1 階にも分室がありますので、健康面に関して安心して学生生活を送ることができます。

定期健康診断

1 年生は、専門課程の学生と共に、湯島地区で定期健康診断を実施しています。そのほかにも必要な健康診断を実施しており、学生の健康管理をサポートしています。

健康相談と診断証明書の発行

心身を含めての健康上の心配事や、人間関係、勉強上の悩みなどさまざまな相談に応じています。また、定期健康診断をもとに進学や就職のための健康診断証明書の発行を行っています。

診療業務と専門医への紹介

体調不良がある場合は、当センターで診療も行っていますので相談に来てください。必要に応じて専門医への紹介もしています。

軽い怪我の処置も行います。横になって休養が必要な方のためにベッドも用意していますのでご利用ください。

疾病予防（ワクチン接種など）

感染予防のために、新入生に対して下記のワクチン接種を実施しています。特に、医療系の大学として良質な医療人を養成するためにも最低限欠かせないワクチンの接種ですので、必ず受けるよう学生に指導をしています。

麻疹（はしか）ワクチン

水痘（水疱瘡）ワクチン

風疹ワクチン

B 型肝炎ワクチン

ムンプス（おたふく）ワクチン

破傷風トキソイド

そのほか、病院実習前に T スポット®.TB 検査やインフルエンザワクチン接種も行っています。

HP：<http://www.tmd.ac.jp/hsc/>

学生・女性支援センター

充実したキャンパスライフを送るためのトータルケア

本学の学生に対して、生活、修学、就職、メンタルヘルス及びハラスメントに関することなど、キャンパスライフ全般にわたり、学生支援活動の充実を図り、男女共同参画の推進を行うことを目的として設置されました。

センターの業務

学生支援に関すること、修学支援に関すること、就職支援に関すること、メンタルヘルス（保健管理センターと連携）及びハラスメントに関する相談及びカウンセリングに関すること、キャリアパスに関すること、ワーク・ライフ・バランス（育児や介護と学業との両立問題など）に関すること

センターの職員

センター長、教員、臨床心理士、事務職員（学生支援課）



学部生へのキャリア講義



発行されている冊子

学生支援制度

東京医科歯科大学では、各種奨学金・授業料免除をはじめとする経済的支援や、万一の教育研究活動中の事故への補償など、入学から卒業まで「快適な学生生活」をバックアップしています。

■学生寮

千葉縣市川市の国府台地区に学生寄宿舎(男子寮定員70名)、国際学生宿舎(女子寮定員50名)を備えています。



国際学生宿舎

■授業料等

入学料免除・授業料免除

・入学料免除

入学前1年以内に学費負担者が死亡、又は風水害等の災害を受けた場合、学長が相当と認める事由がある場合には、選考のうえ入学料が免除されることがあります。そのほか、入学料徴収猶予制度もあります。

・授業料免除

①経済的理由により納付が困難であり、かつ学業が優秀であると認められる場合、②入学料免除と同等の理由がある場合には、選考のうえ授業料が免除されることがあります。そのほか、授業料徴収猶予制度もあります。

・入学に関する経費

入学料	282,000 円
授業料	535,800 円
その他	テキスト代等の費用

■経済支援制度

・日本学生支援機構奨励学生制度

人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資の支弁が困難であると認められた者に対して次の学資が貸与されます。

第一種奨学金(無利子)	第二種奨学金(有利子)
自宅 45,000 円 (30,000 円から希望により選択)	3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から希望により選択
自宅外 51,000 円 (30,000 円から希望により選択)	

※このほか、地方公共団体、民間団体等の奨学制度もあります。

■学生教育研究災害傷害保険(学研災)

教育研究活動中の事故による災害の補償制度で、原則として強制加入となっています。保険料は6年間で7,800 円(4年間で5,400 円)で、正課・学校行事・課外活動中・通学中に傷害を被った場合、約款の定めに従い、死亡保険金・後遺傷害保険金・医療保険金が支払われます。

年間行事

4月

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生健康診断
- 教養部ガイダンス
- 専門科目ガイダンス



5月

- 学内レガッタ
- 体育祭(教養部グラウンド)



6月



7月

8月

- 東日本医科学生総合体育大会「東医体会」
- 全日本歯科学生総合体育大会「歯学体大会」

9月

- 実験動物慰霊祭

10月

- 歯学部歯学科合宿研修
- 文化祭(お茶の水祭)
- 創立記念日(10月12日)
- 解剖体追悼式



11月

- 医学部医学科合宿研修

12月

1月

2月

3月

- 卒業式

サークル活動

15の文化系サークルと26の体育系サークルがあり、国府台地区、湯島地区にある各施設や学外のフィールドで活発に活動を展開。学部・学科を越えた友情の輪を広げる場にもなっています。

■文化系

- ・English Speaking Society (E.S.S)
- ・お茶の水管弦楽団(オーケストラ部)
- ・混声合唱団(コーラス部)
- ・公衆衛生予防医学研究会
- ・Modern Jazz Diggers (M.J.D)
- ・コンピューター部
- ・学生国際交流会 (S.S.I.A)
- ・Tokyo Medical & Dental Piano Club (ピアノの会)
- ・TMDU Emergency Medicine Study Sessions organized by students (TESSO)
- ・美術部
- ・写真部
- ・茶道部
- ・演劇部
- ・ジャズ研究会
- ・アカペラ部 tic tac ♪
- ・iPag
- ・文藝部

■体育系

- ・漕艇部
- ・剣道部
- ・弓道部
- ・硬式庭球部
- ・ソフトテニス部
- ・硬式野球部
- ・卓球部
- ・ラグビー部
- ・ハンドボール部
- ・ゴルフ部
- ・陸上競技部
- ・スキューバダイビング部
- ・アメリカンフットボール部
- ・男子バスケットボール部
- ・女子バスケットボール部
- ・サッカー部
- ・男子バレーボール部
- ・女子バレーボール部
- ・スキー部
- ・水泳部
- ・ワンダーフォーゲル部
- ・バドミントン部
- ・フットサルサークル
- ・ダンスサークル
- ・釣り部

部活動での経験は 掛け替えのないものになります



眞島 裕樹

医学部 医学科 5年生

アカペラ部 tic tac ♪

アカペラ部 tic tac ♪は、歌うことが好きな約60人から成る部活です。ライブや合宿をはじめ、夏は納涼船、冬はスノボなどさまざまなイベントがあり、和気藹々と活動しています。毎回参加する部員もいれば、私のようにワンシーズンに1回しか顔を出さない部員もいますが、誰でも快く迎えてくれる温かい部活です。

tic tac ♪に限らず医科歯科の文化部は、忙しさやモチベーションに合わせて参加する頻度を調節でき、勉強やバイト、他の部活などと両立が可能な部活が多いです。学科や学年を越え、さまざまな価値観を持った人たちと共に一つのことに取り組むという経験は、将来チーム医療を行ううえでも大切な糧になるかと思います。医科歯科で皆さんをお待ちしています。

部活動での経験は 今後に生きる財産となります



加藤 里奈

医学部 医学科 5年

ソフトテニス部

私は中学高校では音楽系の部活に所属していましたが、大学では新しいことを始めようと運動部であるソフトテニス部に入学しました。経験者の部員に教えてもらって競技を楽しむほか、幹部も務め、メンバーの目標や状況がさまざまであるチームの中でどのようにコミュニケーションを取るかなど、人間関係を築くうえでたくさんのことを学びました。

また、私は学友会にも所属し、部活間の活動の調整も行ってきました。多くの団体と連絡を取り合うことが多く、普段自分と関わらないところでたくさんの活動が行われていると知ることができます。医師となっても、組織の中で広い視野を持つことができるようになります。と思っています。

International Exchange 国際交流

学部学生海外研修奨励賞

学部学生に対して海外研修の機会を提供し、豊かな感性と国際性を持つ人材の育成に役立てるため設けられた制度で、対象となるのは海外研修への意欲に満ち、心身ともに健全で、学業優秀と認められる学部学生。ジョンズ・ホプキンス大学、ペンシルバニア大学など、世界の大学や医療機関で貴重な経験を積み、さまざまな発見をし、大きく成長しています。



平成 26 年度 東京医科歯科大学海外研修奨励賞贈呈式



 アメリカ合衆国
メリーランド州 ボルチモア市



岡崎翼
医学部 医学科 5 年

Worthwhile,
exciting, and productive
“Research”

米国の Johns Hopkins University School of Medicine にて、pre-doctoral research fellow として半年間留学し、心房細動の研究を行いました。研究生生活は非常に楽しく、一瞬で過ぎ去りました。英語での communication skill に加え、論文執筆を通じて Academic writing skill を学ぶことができました。医学のみならず、電磁気学や拡散微分方程式といった物理数学の理系分野に視野を広げ研究用 OS である Linux に慣れ親しみ、OpenMP を用いた Multi-processing による高速化など最先端の情報学に触れることもできました。また、理工系の論文誌や、米国不整脈学会に研究内容を投稿するなど、研究内容の Output にも取り組むことができました。留学をご支援くださった関係者の皆様方に、たいへん感謝しております。



 フィンランド
セイナヨキ市



市川晶子
医学部 保健衛生学科
看護学専攻 4 年

海外研修での体験は
今後の学びの原動力となった

私は海外研修奨励制度により、フィンランドのセイナヨキ応用科学大学で研修をさせていただきました。大学での講義や医療施設・福祉施設の見学を通して、フィンランドのヘルスケアシステムの実態を知り、日本のものと比較し、それぞれの良さに気づくことができました。週末は観光やホームステイ、学生パーティーなどがあり、現地の文化にも触れることもできました。

この海外研修を経て、日本のことをもっとよく知らないといけなと感じました。今後の学生生活、そして将来就職してから、日本の医療・福祉や情勢について積極的に学ぶ姿勢を持ち続けたいです。研修の機会を与えてくださった大学と、現地でお世話になった方々に感謝しています。



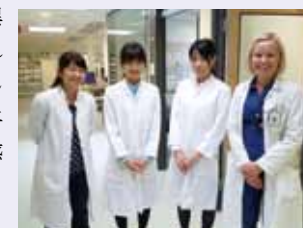
 フィンランド
セイナヨキ市



村上紀里香
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 4 年

日本と異なる医療や文化に
触れられた貴重な経験

私は海外研修奨励制度を利用して、3 年次の夏休みに 3 週間弱、フィンランドのセイナヨキ応用科学大学で研修をさせていただきました。保健医療の学習や高齢者施設などの医療関連施設の見学を通して、福祉国家であるフィンランドの医療を見て学ぶことができ、大変勉強になりました。病院の検査部の見学では、働いている方々にお話を伺い、検査室の雰囲気や技師の資格制度の違いを知ることができました。また、現地の学生との交流や観光、ホームステイをした中で、日本と異なる文化や考え方に触れられたことは、良い経験となりました。このような貴重な機会を与えていただいたことに心より感謝しています。



 アメリカ合衆国
フィラデルフィア州 マサチューセッツ州



呉圭哲
平成 26 年度卒業
歯学部 歯学科

自らの将来について
考えさせられる魅力的な体験

国家試験終了後、アメリカ合衆国のフィラデルフィア州ペンシルバニア大学、マサチューセッツ州タフツ大学とボストンの開業歯科医院の 3 ヶ所にて研修を行いました。現地の歯科診療を見学することが主な研修の内容でしたが、研修を終えてみてさまざまなことが勉強になったのはもちろん、自分の将来像が明確になり、現地でご活躍されている先生方との出会いによって、今後海外で学びたいという思いが具体性を帯びるようになりました。将来海外に出たいと志す人にとっては自らの将来設計がイメージしやすくなるので本海外研修はぜひお勧めのプロプログラムだと思います。たくさんの方々と出会い交流を図れるというのも本研修の醍醐味です。



International Exchange 国際交流

 アメリカ合衆国
ペンシルバニア州 マサチューセッツ州



松本拓也
平成 26 年度卒業
歯学部 歯学科

グローバルに活躍するための
“スタート地点”

私は海外研修奨励制度を利用して米国のペンシルバニア大学およびタフツ大学にて約 1 ヶ月間研修を行ってまいりました。今回の研修では、ただ旅行するだけでは体験することができない、日本とは異なるアメリカの歯科事情や文化を直接、深く体験することができました。日本の中だけにいては見えてこないものを実際に自分の目で見て経験したことによって、自らの世界を広げることができました。今回の研修は、自分のこれからのキャリアについて改めて考える非常に良い機会となりました。海外研修を行うことはゴールではなく、これがグローバルに生きるためのスタートであるので、今後もより一層勉学に励んでいきたいと思っています。



 フィンランド
ヘルシンキ トゥルク



松原あき
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻 4 年

さまざまな場面、
コミュニケーションから得た
自信へとつながる経験

私はフィンランドのヘルシンキメトロポリア応用科学大学、トゥルク応用科学大学の 2 大学で 3 週間の研修を行いました。学生が実習するクリニックの見学やヘルスプロモーションに関する講義、高齢者施設の見学などの機会をいただきました。歯科衛生士が自身の診療室で診療を行っている様子、歯科衛生士単独で訪問歯科診療を行っている様子、クリニックで学生が自信を持ち自立し行動する様子を見て、歯科衛生士の仕事に誇りを持ち、積極的に行動していくことの重要性を強く感じました。また、トゥルク応用科学大学では、世界各国から訪れた、歯科、医科、福祉などのさまざまな専門職種の方と話し、その国の文化や習慣を知ることができました。

今回、このような研修の機会を与えていただき、サポートしていただいたすべての皆様に感謝いたします。この経験を財産とし、自身の技術、知識の向上に励んでいきたいと思っています。



 オーストリア共和国
ウィーン



齋藤夏実
歯学部 歯学科 5 年

海外に目を向け、
世界のレベルを体感する
チャンスに

4 年生の 3 月、ウィーンにある分子生物学研究所 Institute of Molecular Biotechnology(IMBA) に留学しました。世界的な研究者である Josef Penninger 先生のラボにて、主に遺伝子改変マウスを用いた研究を見学し実験に参加させていただきました。心疾患から臓器腫瘍までさまざまなテーマに触れ、学術活動への好奇心を増すとともに、研究者の方々の研究への取り組み方に感銘を受けました。それは、個々の事象について深く思考し、時間にとらわれず議論を重ねる姿勢であり、同時にメリハリを持って自分の時間を大切にする姿でした。また日本人研究者の方とお話し、海外での研究生生活の魅力や苦労についても知ることができました。この経験を糧に、世界で活躍できる歯科医師、研究者になるべく努力していきたいと思っています。



 スウェーデン ヴェストラ・
イエータランド県 ヨーテボリ市



小野由貴奈
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻 4 年

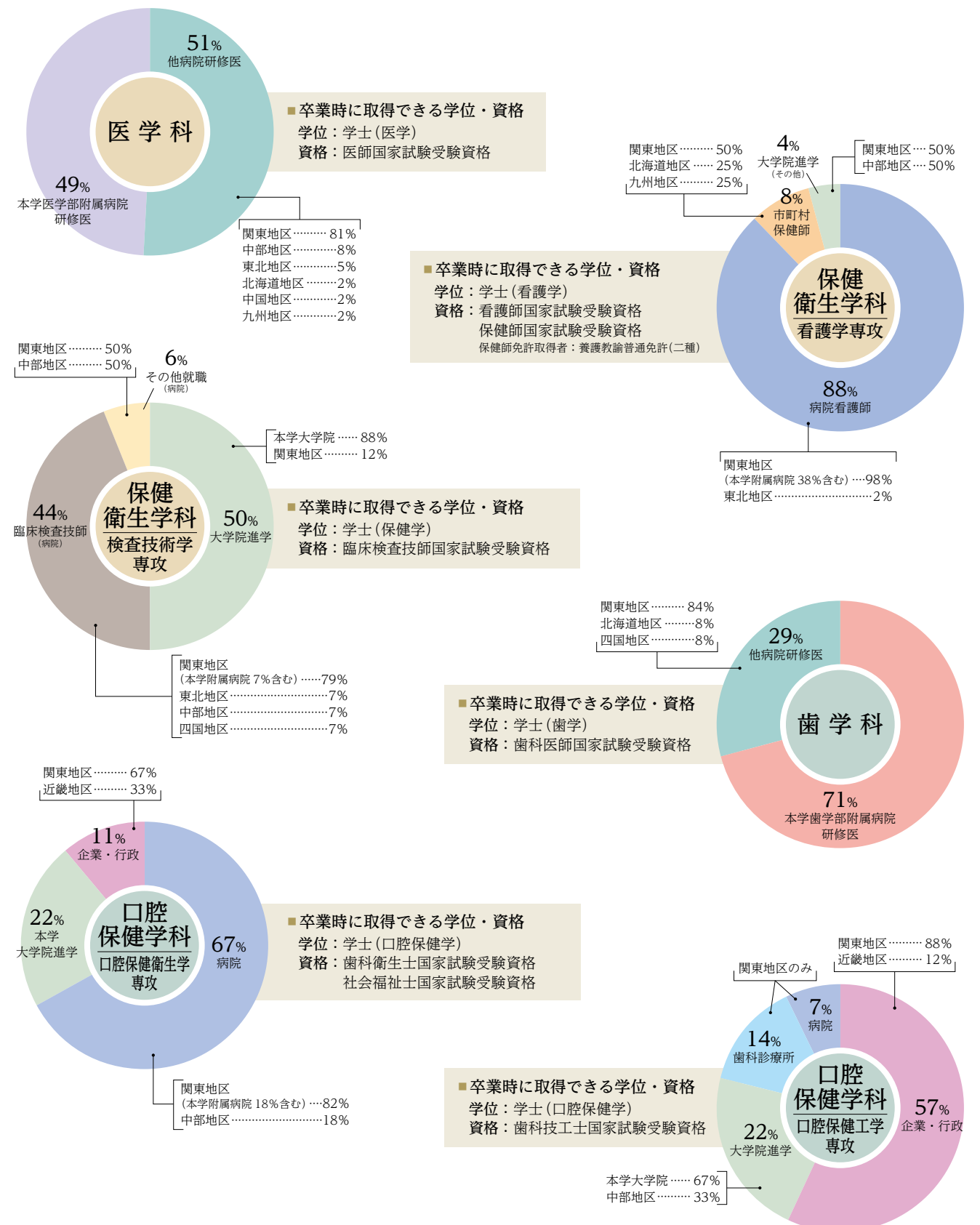
歯科先進国での経験を
将来への自信に

私は海外研修奨励制度を利用し、スウェーデンのヨーテボリ大学歯科技工科で 1 ヶ月間研修をさせていただきました。国民の歯科への意識が高く、骨結合性インプラントの発祥地であることから研修先を選びました。技工実習が主な研修内容でしたが、日本人らしい繊細な補綴物が製作でき高い評価をいただいたことは今後の励みになりました。顎顔面補綴科の先生が補綴物を製作する現場も見学でき、より臨床的な知識を得ることができました。言葉の面では思い通りに考えを述べられないことも多く苦労しましたが、懸命に伝える姿勢の大切さを確信した研修でした。

最後に、貴重な体験をさせていただいた、本学並びに研修先の皆様に深く感謝申し上げます。



卒業後の進路 (平成 26 年度卒業生)



入試情報

東京医科歯科大学の入試

東京医科歯科大学では「一般入試」と「特別入試」を行っています。「一般入試」は、大学入試センター試験と分離分割方式（前期日程・後期日程）で行われる個別学力検査を実施します。「特別入試」は、大学入試センター試験を課す地域特別枠推薦入試（医学科）と大学入試センター試験を課さない推薦入試（保健衛生学科）と私費外国人留学生特別入試があります。

その他に、学士編入学試験（医学科2年次・3年次編入学試験（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻）・2年次編入学試験（口腔保健学科口腔保健工学専攻））があります。

入試日程

- 大学入試センター試験
平成28年1月16日(土)～17日(日)
- 一般入試前期日程試験
平成28年2月25日(木)／26日(金)
合格発表…3月10日(木)
- 一般入試後期日程試験
平成28年3月12日(土)／13日(日)
合格発表…3月22日(火)

一般入試・推薦入試

	募集人員	前期日程	後期日程	推薦入学
医学科	101 名	82 名	15 名	4 名
保健衛生学科 看護学専攻	55 名	35 名	—	20 名
保健衛生学科 検査技術学専攻	35 名	30 名	—	5 名
歯学科	53 名	38 名	15 名	—
口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	22 名	22 名	—	—
口腔保健学科 口腔保健工学専攻	10 名	10 名	—	—

2年次学士編入学

	募集人員
医学科	5 名

3年次編入学

	募集人員
口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	6 名

2年次編入学

	募集人員
口腔保健学科 口腔保健工学専攻	5 名

平成27年度一般入試志願状況

前期日程

	志願者数	志願倍率
医学科	388 人	4.7 倍
保健衛生学科 看護学専攻	134 人	3.8 倍
保健衛生学科 検査技術学専攻	99 人	3.3 倍
医学部計	621 人	4.2 倍
歯学科	209 人	5.5 倍
口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	62 人	2.8 倍
口腔保健学科 口腔保健工学専攻	40 人	4.0 倍
歯学部計	311 人	4.4 倍
合 計	932 人	—

後期日程

	志願者数	志願倍率
医学科	160 人	10.7 倍
保健衛生学科 看護学専攻	—	—
保健衛生学科 検査技術学専攻	—	—
医学部計	160 人	10.7 倍
歯学科	162 人	10.8 倍
口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	—	—
口腔保健学科 口腔保健工学専攻	—	—
歯学部計	162 人	10.8 倍
合 計	322 人	—

沿革

昭和3年、日本で初めての国立の歯科医師養成機関として、本学の前身である東京高等歯科医学校創立。

そして昭和19年には、東京医学歯学専門学校と改名し、医学科を設置。

東京医科歯科大学は、その長い歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、トップレベルの教育・研究機関として日本の医学・歯学の世界をリードしてきました。



明治30年頃のお茶の水周辺

- 明治 32. 4 ●東京医術開業試験附属病院（永楽病院：現在の千代田区丸の内1・2丁目）
- 大正 6. 8. 1 ●歯科医師開業試験附属病院（東京帝国大学医科大学附属医院分院〔通称：小石川分院〕と同居）
- 大正 7. 6 ●歯科医師開業試験附属病院（東京外国語大学のテニスコート跡地に建物を建築）
- 大正 11. 1 ●歯科医師附属病院（改称）
- 昭和 3.10.12 ●東京高等歯科医学校
- 昭和 5.12 ●東京高等歯科医学校（現在地へ移転）
- 昭和 19. 4 ●東京医学歯学専門学校（医学科設置）
- 昭和 21. 8 ●東京医科歯科大学（旧制）
- 昭和 21.10 ●予科設置
- 昭和 24. 6 ●医学部附属病院 歯学部附属病院
- 昭和 26. 4 ●東京医科歯科大学（新制） 医学部医学科・歯学部歯学科
- 昭和 30. 4 ●大学院医学研究科・大学院歯学研究科 医学、歯学進学課程（千葉大学文学部内）
- 昭和 33. 4 ●附属図書館分館設置（国府台分校） 医学、歯学進学課程（国府台分校）
- 昭和 40. 4 ●教養部の設置
- 昭和 41. 4 ●歯科材料研究所が「医用器材研究所」へ改称
- 昭和 45. 4 ●保健管理センターの設置
- 昭和 48. 9 ●難治疾患研究所の設置
- 平成 元. 4 ●医学部保健衛生学科新設
- 平成 11. 4 ●大学院医歯学総合研究科の設置 生体材料工学研究所へ改組
- 平成 16. 4 ●歯学部口腔保健学科新設
- 平成 21. 4 ●国際交流センターの設置
- 平成 21.12 ●スチューデントセンターの設置
- 平成 23. 4 ●歯学部口腔保健学科（2専攻）の設置（口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻）
- 平成 24. 4 ●大学院医歯学総合研究科を改組（2専攻）（大学院生命情報科学専攻を統合） 女性研究者支援室の設置



東京高等歯科医学校第一附属医院(昭和6年頃)



本郷通りから正門(昭和9年)



湯島地区全景(昭和27年頃)



国府台分院(昭和28年頃)

募集要項等の請求方法

資料の請求は、下のいずれかの方法をご利用ください。

パソコンでの請求方法

まずは、本学のホームページ <http://www.tmd.ac.jp/> にアクセス。
トップページにある**入学案内**をクリックし、左側にある**学部・大学院入試関連資料請求**を選び、ご希望の方法により資料を請求してください。



携帯電話での請求方法

テレメール、またはモバっちょのサイトから請求してください。



テレメール

